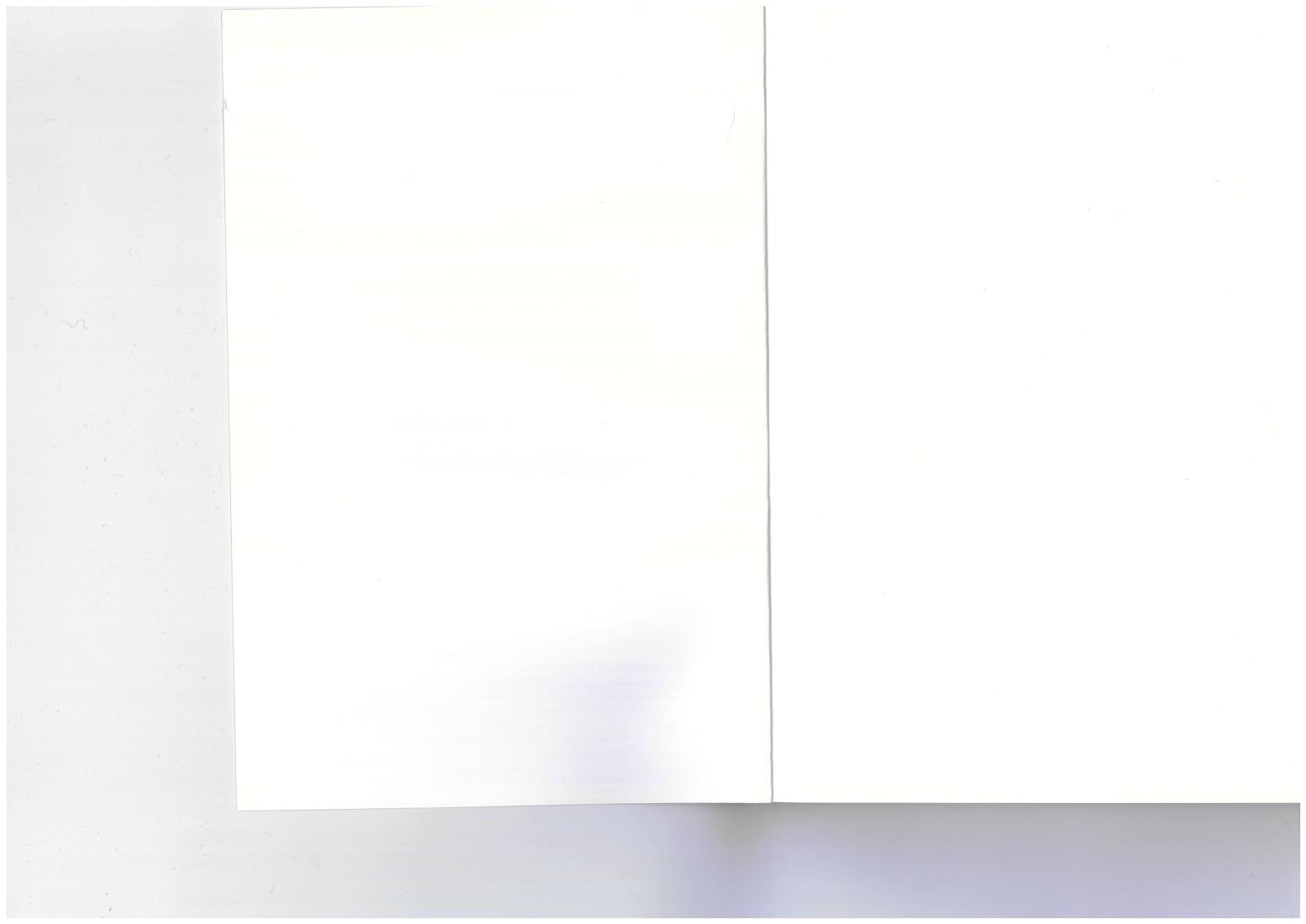
Imaginary City "metamorphosis" Hiroshima; Experimental Artworks Exhibition 2003

**Artworks Exhibition** 

meta MOYPN0515 Me nosismeta mo morphosisma



表象都市 metamorphosis 広島 一芸術実験展示 2003 -

会期: 2003年9月27日-10月26日 会場:旧日本銀行広島支店、平和大通り

主催:広島市立大学

広島市立大学「表象都市 metamorphosis 広島

芸術実験展示グループ」

助成:財団法人ポーラ美術振興財団

芸術文化振興基金

財団法人野村国際文化財団 財団法人芸術研究振興財団

財団法人エネルギア文化・スポーツ財団

後援:広島芸術学会

財団法人広島市ひと・まちネットワーク

広島市現代美術館 広島市教育委員会

広島県教育委員会

中国新聞社

NHK 広島放送局

ドイツ学術交流会 DAAD ドイツ連邦共和国総領事館

協力:ANA

The Imaginary City "metamorphosis" Hiroshima; Experimental Artworks Exhibition 2003

Exhibition Period: 27.September - 26.Octorber. 2003 Exhibition Place: the Former Bank of Japan Hiroshima

Branch Office, the Peace Boulevard

Organizer: Hiroshima City University

Hiroshima City University "The Imaginary City

"metamorphosis" Hiroshima

Experimental Artworks Group"

Grants from: POLA Art Foundation

Japan Arts Fund

The Nomura Cultural Foundation Art Research Foundation

Energia Culture and Sports Foundation

Under the auspices of:

Hiroshima Art Society

Hiroshima City Plaza for Town Development

through Citizen Exchange Foundation

Hiroshima City Museum

of Contemporary Art

Hiroshima City Board of Education

Hiroshima Prefecture Board of Education

The Chugoku Newspaper

NHK Hiroshima Branch

DAAD Deutcher Akademischer

Austauschdienst Deutsches Generakonsulat

Cooperation: ANA





POLA ART FOUNDATION 於 野村国際文化財団



関連イベント

ギャラリートーク

日時: 2003年9月28日 [15:00 - 17:00]

旧日本銀行広島支店 2 階パックステージ・ラウンジ他 会場:

進行: 藤井匡

参加作家:加納士朗、木村東吾、佐藤時啓、林武史、風袋宏幸、

松井紫朗、丸山富之、村井進吾、吉田樹人

広島在住若手アーティストによるギャラリートーク

日時: 2003年10月13日 [14:00 - 16:00]

会場: 旧日本銀行広島支店 2 階パックステージ・ラウンジ他 参加作家:江田ゆかり、加納士朗、木村東吾、

吉田樹人、和田拓治郎

Related Events

Gallery Talk

Date: 28.September.2003 [15:00 - 17:00]

Backstage Lounge, the Former Bank of Japan

Hiroshima Branch Office

Chairman: Fujii Tadasu

Artists: Kano Shiro, Kimura Togo, Sato Tokihiro, Hayashi Takeshi, Futai Hiroyuki,

Matsui Shiro, Maruyama Tomiyuki, Murai

Shingo, Yoshida Shigeto

Gallery Talk: Young Artists live in Hiroshima

13.Octorber.2003 [14:00 - 16:00]

Backstage Lounge, the Former Bank of Japan Place:

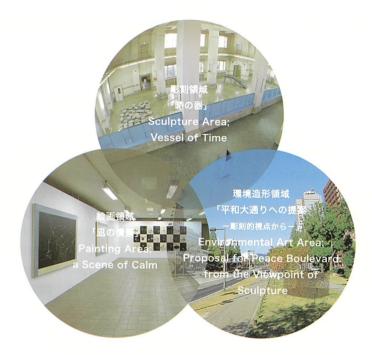
Hiroshima Branch Office

Artists: Eda Yukari, Kano Shiro, Kimura Togo,

Yoshida Shigeto, Wada Takujiro

寄稿者及び参加作家の役職については、2003年9月現在のものを表記しました。

表象都市 metamorphosis 広島 — 芸術実験展示 2003 — The Imaginary City "metamorphosis" Hiroshima; Experimental Artworks Exhibition 2003



昨年(2003年)秋、広島市において、内外のアーティストおよび研究者(哲学・美学・芸術学)の協力・参加をえて、「表象都市 metamorphosis 広島 一芸術実験展示プロジェクト 2003 一」を開催することができました。

周知のように、1945年、広島市に一個の原子爆弾が投下され、その結果、広島市は都市として完全に壊滅しました。しかし今日の広島市は、日本のいや世界人類の永遠平和を希求する大都会として見事に復興を遂げ、その都市としての機能も大規模に現代化されました。もちろんこの都市の住民は、一方では、今なお20世紀の人類史上の負の遺産を背負い、その表象は否定的でおぞましい記憶を消し去ることはできません。とはいえ他方では、都市「広島」は現代都市としてのさまざまの問題を抱えながらも、多様で豊かな文化的な可能性をもちあわせているといえるでしょう。私たちは、「被爆」という人為的要因による史上もっとも悲惨な体験をもつこの広島市で、「芸術」という自由な創造行為によって、現代都市「広島」の新たな変容の在り方に、積極的に関わろうとしたのです。

このプロジェクトは、都市「広島」の現在を舞台にして、このような広島の状況に深い関心を抱く内外のアーティストの「芸術実験展示=制作行為と展示」、

さらに研究者と市民も参加する「シンポジウム」との 二つのプログラムによって構成されました。このカタ ログでは、その「芸術実験展示」の成果としての記録 が纏められています。参加した内外 20 名のアーティ ストは、都市「広島」をイマージュの対象と受け止め、 チーフディレクターによって予め提案されました一種 の「隠喩法 Metaphorik」を共通の制作方法論とし、 新しい作品表現に挑んだのです。また「シンポジウ ム」では、「広島における芸術の意味とその世界性」 を中心テーマに、ディスカッションが行われましたが、 その内容は同時に別冊で編集されました。

つまり私たちは、都市「広島」に新しい文化的で芸術的な視点を見い出したいと念願したのです。その意図は、たんに核兵器の廃絶や平和運動という直接目的ばかりを狙うのではなくて、そればかりか芸術作品の強い表現性によって、原爆投下で被災したあの広島の歴史と文化の根源に立ち戻ろうと考えたのです。というのも、広島の今日的きまり文句 cliché 例えば核兵器の廃絶や世界平和のような言い回しでさえも、広く一般にはかなり常套句化し、ときには無感覚で陳腐にさえ響くからです。私たちは、戦後の第二世代として、「平和」という深く底知れぬその言葉の意味について熟考したかったのです。しかも、芸術的表現意志の根底に

#### 潜む強靱な意識によって!

このような私たちのプロジェクトがはたして成功したかどうかの評価については、今後の皆さまの積極的なご意見とご批判を給わりたいと思いますが、ともあれ私たちは、この準備と開催の一年間、ともかく燃焼したというのが実感です。

最後になりますが、ご理解をいただき快く参加下さいました内外アーティストと研究者の皆様にこの場をお借りし、厚く御礼申します。また、このプロジェクトを温かく見守り、ご支援と協力を給わった諸関連団体、広島市と大学当局、そして多くの個人の方々にも、ここに心から感謝の気持ちを申し述べたいと存じます。

2004年3月

#### 武藤三千夫

表象都市 metamorphosis 広島実験展示グループ チーフディレクター

東京芸術大学名誉教授

広島市立大学大学院芸術学研究科教授

#### Opening Remarks

In the autumn of 2003, foreign and domestic artists as well as scholars in the fields of philosophy, aesthetics, and fine art collaborated in an exhibition called "The Imaginary City "Metamorphosis" Hiroshima; Experimental Artworks Exhibition 2003".

It is common knowledge that Hiroshima was completely destroyed as the result of an atomic attack in 1945. The Hiroshima of today has developed into a world-class, modern metropolis - a city on the forefront of the peace movement. The citizens of Hiroshima still live bear the scars of the greatest tragedy in the 20th century, a legacy of bitter memories they can never escape. Despite its past, Hiroshima is committed to the future. The challenges faced by the city are exceeded by the potential of the cultural diversity that exists in contemporary Hiroshima society. Our efforts are focused on using the creative medium of the arts to

symbolize the transformation of the spirit of Hiroshima from the unprecedented sadness inflicted by the man-made catastrophe of the atomic bomb into the vital city of the present.

This project is composed of two parts: a series of exhibitions by foreign and domestic artists with a deep spiritual connection to Hiroshima who utilized experimental art exhibitions to demonstrate their creativity and a symposium attended by both scholars and members of the public. This catalog is a compendium of the successes of the experimental art exhibition. The twenty artists who contributed pieces to the exhibition all produced their own individual views of Hiroshima based on "Metaphorik", a common methodology proposed by the Chief Director. The topic discussed at the symposium was "the Meaning of Arts in Hiroshima and its Universality". The proceedings of the symposium are detailed in a separate pamphlet.

Our objective is the discovery of a new cultural and artistic perspective on Hiroshima, not only to achieve the abolishment of nuclear weapons or as part of the peace movement in a concrete sense, but also to use the considerable power of expression inherent in works of art as a means of returning to the historical and artistic foundation that existed in post-war Hiroshima. Something substantive is needed to replace the cliché frequently heard in contemporary Hiroshima; all too often phrases like "No Nukes!" and "World Peace!" ring hollow, sounding like so much overwrought boilerplate. We members of the baby boomer generation, born following the Second World War as we were, are in a unique position to contemplate the true meaning of the term "peace", not as a mere word, but also through the power of creative expression inherent in art. The final verdict on our project will be delivered by you, the audience. Having

worked to the best of our abilities over the past year to plan and execute the project, we look forward to hearing the impressions and criticism of the public. In closing, I would like to take this opportunity to express our sincerest gratitude to all the artists who graciously contributed pieces to the project, the affiliated groups that assisted and supported us, the City of Hiroshima, university faculty, and private individuals too numerous to mention. Your patronage is truly appreciated.

January, 2004

#### Muto Michio

Chief Director, The Imaginary City "metamorphosis" Hiroshima"

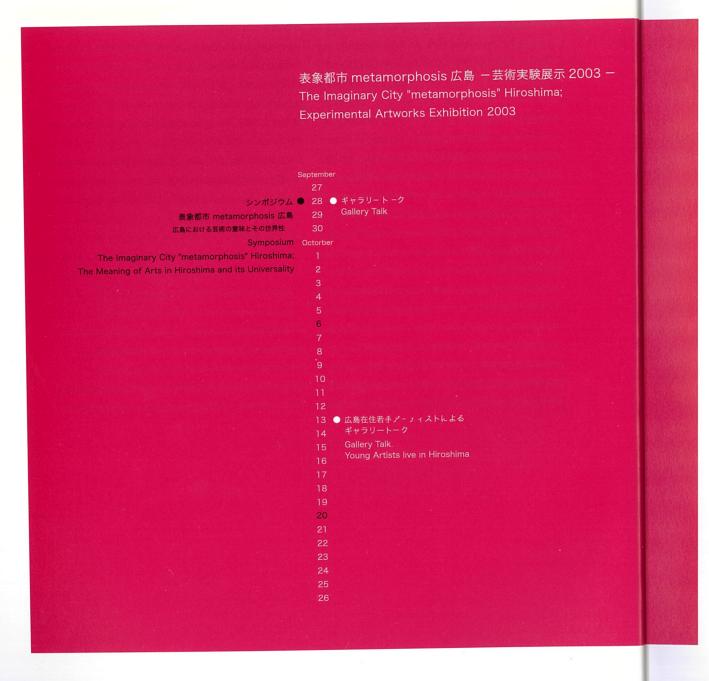
Experimental Artworks Exhibition Group

Professor Emeritus, Tokyo National University of Fine Arts and Music

Professor, Graduate Faculty of Fine Arts, Hiroshima City University

表象都市 metamorphosis 広島 -芸術実験展示プロジェクト 2003-

Schedule



#### Contents

ご挨拶詞 Opening Remarks

武藤 三千夫

10 「表象都市 metamorphosis 広島 芸術実験展示プロジェクト 2003 」 On Experimental Artworks Exhibition 2003: Imaginary City "metamorphosis" Hiroshima

> 金田 晉 Kanata Susumu

23 彫刻領域「時の器」 Sculpture Area: Vessel of Time 伊東 敏光

Ito Toshimitsu

36 林 武史 Hayashi Takeshi

38 中瀬 康志

40 丸山 富之 Maruyama Tomiyuki

42 佐藤 時啓

44 岡本 敦生

24 絵画領域「凪の情景」 Painting Area; a Scene of Calm

> 吉井 章 Yoshii Akira

25 環境造形領域「平和大通りへの提案 - 彫刻的視点から-」

> Environmental Art Area; Proposal for Peace Boulevard from the Viewpoint of Sculpture

前川 義春 Maekawa Yoshiharu

Charles Worthen 34 伊東 敏光 Ito Toshimitsu

28 村井 進吾

30 松井 紫朗

Murai Shingo

Matsui Shiro

32 チャールズ・ウォーゼン

Nakase Koji

Sato Tokihiro

Okamoto Atsuo

46 吉井 章 Yoshii Akira

48 ウルリヒ・エラー Ulrich Eller

50 ペーター・トゥーマ Peter Tuma

52 柏健 Kashiwa Takeshi

54 風袋 宏幸 Futai Hiroyuki

56 和田 拓治郎 Wada Takujiro

> 58 木村 東吾 Kimura Togo

60 加納 士朗 Kano Shiro

62 吉田 樹人 Yoshida Shigeto

64 江田 ゆかり Eda Yukari

66 前川 義春 Maekawa Yoshiharu

68 参加作家略歴 Biography

#### 1. プロジェクトへの期待

広島市立大学は芸術実験に関して大きな一歩を踏み出した。私はそれを喜びたい。この大学に所属する美学者と作家は、昨年9月国内外の研究者やアーティストに参加を呼びかけて、芸術実験「表象都市metamorphosis 広島」と銘打つ大プロジェクトを企画した。それは、みずからの活動拠点を見直し、世界の芸術的知性と連帯しながら、芸術の将来と都市創造の新しい可能性を見極めようとするものであった。この国では美学者と作家の壁はなお高い。その共同の実験作業が広島市立大学という制度的機関の主催事業として実現したのである。

このプロジェクトは2セクションからなっている。 第1セクションは美学部門であり、武藤三千夫(美 学) がディレクターとしてシンポジウム「広島にお ける芸術の意味とその世界性」を組織した。かれは 現代芸術の理論と制作を貫く手法として「隠喩学 Metaphorik」を提唱し、その切り口から芸術の可能 性を切り開こうとした。私もこのセクションにアド ヴァイザーとして加わり、「隠喩と文化」という基調 報告を行った。ニーチェにはじまり、前世紀80年代 に公然化された現代哲学と美学の問題状況に立って、 認識構造の隠喩的性格を明らかにしようとした。また 第5回ヒロシマ賞受賞者である建築家ダニエル・リベ スキンドの受賞記念展をとりあげて、そこに貫かれる 隠喩 (メタファー) の現代性を解きほぐそうとした。 本「芸術実験展示2003」は、この大きなプロジェ クトの第2セクションにあたる。この大学の芸術学部 を拠点に国内外で活躍する作家たちと、その指導のも とで育ちつつある次世代の作家たちが中心となって組 織された。しばらく前は、かれらの活動が広島では「見 えない」と批評されたこともないわけでなかった。だ

が今少しずつその全容が見えはじめている。各種の公募展に、実力をつけた学生たちが次々に入賞入選するようになった。教師たちも市内でユニークな企画展や個展を開くようになり、近年は美術造形の力を島起こし、町おこしにまで展開するようになった。

それらの仕事の積み重ねを背景にし、今回のプロジェクトに共鳴した国内外のアーティストの参加をえながら、今回の芸術実験が実現したのである。その意欲の感じられる展示となっていた。

### 2. プロジェクトの統一テーマ 「隠喩法」と芸術実験

企画力の優秀さは表題と主題に大半示される。「表象 都市」という呼称はじつによい。物理的、地理的存在 としての広島は、日本においてもそれほど大きくない、 瀬戸内海に面した人口 100 万人程度の中都市にすぎ ない。その地に1945年8月6日原爆が投下された。 私たちはその原爆が2度と地球上で使用されてはいけ ないと主張してきた。その主張は世界の多くの人々の 共感を得てきた。表象としてのヒロシマは地球大の大 きさをもつ。だが一方それによって植民地からの解放 を早めたと信じる人もいないわけでなく、さらには核 抑止力の問題ととらえ、むしろ核兵器の増強を誇る為 政者もなお少なくない。残念である。それらの風潮に 抗して核兵器を地上から葬り去るには、その破壊の反 牛命性についていかに根源的で、豊かな表象を育み、 それに力をあたえてゆくことができるかにかかってい る。それは芸術の力だと言って過言でない。

このプロジェクトは表象の metamorphosis(変成、転生、変身)をうたう。メタモルフォーシスとは meta- <の後に、を超えて>+ morphosis(=morphe <かたち>の動詞 morphein の名詞化)の合成語であ

り、かたちの静止ではなく、かたちからかたちへの変成過程が重要なのである。表象としての「広島」は変成する。死の極限を受苦(パトス)した者だけが生の歓喜を知ることができる。広島に共感する作家たちは、新しい生命の表象を形成する責めを同時に負っている。私は本プロジェクトに参加した作家たちにそれを期待した。隠喩(メタファー)の本義はモノをある所から別の所に運ぶことである。最大の隠喩は、古代ギリシア悲劇がそうであったように、幸福から不幸へ、あるいは不幸から幸福への逆転(ペリペテイア)、生から死への、あるいは死から生への逆転である。その根源的などんでん返しを、作家たちはどのように造形しきれるか。

# 3.「芸術展示」の作品たち(1)

芸術は隠喩(メタファー)である。作品をモノ、鑑賞の対象としてではなく、そこで何かが出来する乗物ととらえるということである。作品は想像力を乗せる乗り物と言ってもよい。モノに対比して言えば、そこで生起するコトが重要なのである。出品された作品は、何を生起させているか。それをどこからどこへと移行させてゆくのか。その視点で、二つの会場の展示を見た。

第一会場の旧日銀広島支店は、広島市内中央部に残る、象徴的な被爆建物である。そこに出品する者は、1945年8月6日で時間をとめた建物をもう一度蘇生させるという責めを負う。吉井章をディレクターとする絵画領域と伊東敏光をディレクターとする彫刻領域が展示されていた。

絵画領域の吉井章は広島市内の出身であり、廃墟の跡の川原が少年時代の遊び場だった。画家として広島市立大に戻り広島市立大学で学生指導にあたるが、「凪の情景"記憶の地広島"」はその隔てられた二つの時間が鍵を握っている。吉井は最近さかんに俯瞰図的視点で町並みを描くが、それは上空の遠い高みから眺め

た風景ではないであろう。この絵でも同じ俯瞰図から現在の平和公園を描いているのであるが、かれはその風景をどこまでも至近の距離から見てほしい、と考える。失われた河岸の凸凹の石積み、高くのびた水際の雑草の中を少年や少女らはくぐるように駆け回った。人も樹も雲も動かない。空気が死んだように止まっている。記憶の風景はそのようなのか。復興なった平和公園はどこまでも清潔で静謐である。原爆の投下された8時15分も同じように朝凪の状態だったか。かれはアウトサイドとインサイドという言い方をする。その両方が微妙な均衡で引き合っているところに、広島の「凪」を見たいのであろう。

柏健の「ラビラント」連作は、速度とポーズを異にして十字路を駆け抜けて行く男たちの裸像群として描いている。鋭利な線と明快な色彩が現代社会を活写している。どこからどこへ、それが走っている当人たちに分からない。現代の「ラビラント」(迷路、紛糾)は人里離れた地にあるのでなく、雑踏する交差点にあると言いたいのか。路面に踏まれて行く白い輪郭で描かれた人影。下半身が前後の人物と重ね描きされていて、透明人間のような実在感を欠いた目つきの鋭い男が、群像の中で一人だけこちらを凝視している。作家自身か。理屈が勝ちすぎるきらいがあるが、そこにも凪があるか。

ウルリヒ・エラーの音響インスタレーション「折りたたまれた音響」は新鮮であった。高速道路の騒音を波が浜辺を打つ音に合成したという反復音が経折本の形態に凝固し、かつ一瞬に凍りついた形態がまた時間となって溶け出して行く。

ベーター・トウーマの「広島の静物」。旅館か民家の一隅にある盆栽あるいは盆栽風の庭園。それは市民生活の平和の象徴。日本的なものを感じ取り、それを明暗の反転で描いた。暗い風景は「オマージュ」と題される。オマージュの向けられるものは、死の影。過去的な性格が貼りついている。そこに身を置いて、忘れないことの誓い。オプセッション(憑意)。明るい盆栽風景には「2003」と題がついている。その暗と明

が反復されて、日本的模様、市松模様が出現する。「健 康な子ども」という唐突な題が飛び出してくる。

思えば、トゥーマの題にある "still-life" はドイツ語では "Stilleben" であり、「静物」が直訳であるが、イタリア語では "natura morte"、フランス語で "la nature morte" と言い、直訳すると「死んだ自然」ということになる。それらは歴史画や肖像画や神話画に対して、切花や家具やパンやワインやグラスや虫や鳥を描いて、アレゴリー(寓意)として「memento mori 死を忘れるな」を内容とした。地に根を生やした盆栽に日本の、広島の静物を見たことは、トゥーマの広島への愛であろう。

絵画領域の統一テーマは「凪の情景」と名づけられる。 凪は漢字で、「風が止まる」と書く。陸からの風と海 からの風との引き合うところ。私は30数年前にはじ めて広島で知った凪を思い浮かべた。8月極暑の夏の 凪は、蒸し風呂のように暑く、汗が流れた。おそらく 被災後の死臭は大変なものであったろう。きれいごと ではない。理屈ではない。逃げたくても逃げられない、 身体に貼りついて、体内から分泌液がにじみ出てくる ギリギリのところからの「凪の情景」を思い浮かべた。 だが吉井はこれによって反対のもの同士の動的な緊張 関係を見ようとしたのであろう。吉井自身にとっての 広島の現在と記憶、アウトサイドとインサイド。そこ に生まれる緊張を微妙な静寂として描こうとしたので あろう。柏やエラーやトゥーマが理解した相反するも のの緊張と静寂。日本の作家と海外の作家による同じ テーマの表現とその差異。それらを一堂に展示しよう としたのであろう。

同じ旧日銀広島支店に伊東敏光がディレクターの彫刻 領域は「時の器」がテーマであった。彫刻は、絵画が もっぱら虚の領域へと広がって行くのに対して、実の 領域に足を置き、だから建築物の実在感とはげしくぶ つかる。この日銀支店内部は、簡素で飾り付けもなく、 一見無機質な空間のように見えるが、だがそこに彫刻 なり立体なりを置くとなると、急に銀行の面貌が出て

きて困惑してしまう。

伊東と環境芸術領域のディレクター前川義春は、市立 大学創設に合わせて広島に来て以来ずっと「被爆建物」 にこだわってきた。はじめて市の中心部を歩いて、こ の大手町の旧日銀広島支店の建物に衝撃を受けたとい う。かれらはそこに現代をぶつけることに、広島にお ける創造活動の原点を求めてきた。東雲にあった旧広 島大学学校教育学部図書館や宇品にあった旧陸軍の被 服廠など被爆建物で大掛かりな彫刻展を開催し、その 都度広島内外の作家や若者たちを集めて、新鮮な感動 をあたえてきた。そのような実績を踏まえて、今回の 展覧会がある。最初の広島での衝撃の作品化であった と言って過言でない。だが展示会場ということになる と、この建物には意外な難しさがあったようである。 その苦心が随所に見られた。

彫刻領域は「時の器」と題される。それはまずは被爆建物旧日銀支店をさしているのであろう。次ぎに、展示されている作品一つひとつについても、それを言いたいのであろう。だが建物の内部に入ると、まず本プロジェクトのテーマ「隠喩法」への強烈な挑戦状をたたきつけられる。隠喩はイメージの世界である。

村井進吾の「個体」、一見ぶっきらぼうに御影石の直方体が2体並ぶ。だがかれの作品に親しんできた者には、そこに周到に計算された彫刻の意思が見えてくる。一方の直方体を上から覗くと、鋭角に彫り込まれた三角錐の凹体が見えてくる。もう一方の直方体には蓋があって、私には確認できないが、その蓋の下にはこれも鋭角な四角錐が彫り込まれ、その凹部に別の四角錐がぴったり嵌めこまれているという。私はそこにイメージの介在を許さない、彫るというどこまでも即物的な意思にぶつかるのである。彫刻に「隠喩法」が成立するとすれば、そこから出発せよと、村井は言っているようだ。ただ、それよりはるかに太く吹き抜けの天井まで続く建物の柱の前では、どうしても影が薄くなる。見る者はそこに気をとられる。それが残念だった。

松井紫朗の「Mask」は、日銀支店のカウンターを利

用した作品である。シリコンラバーのチューブを床にはわせてカウンターに立てられた合成板につながってゆき、その青と黄の両面がカウンターの外と内を切り分けている。マスクという存在が強烈に内と外との断絶を強調するものであるが、松井は意識的に、内側が華麗な外側になり、だから外側が内側になってしまう空間を作り出そうとしてきた。マスク(仮面)はふつう外側だけを問題にするが、内側が外側の先端となることもありうるのだ。

チャールズ・ウォーゼンのプラスティック作品群は、 奇怪な造形からなっている。日常的にどこにでも転 がっている断片、ガラクタのように思わせながら、そ れらがイメージとして増殖して行く。林武史は御影石 の石板を不規則にずらせて並べて、崩落した廃墟、遺 跡の敷石を思わせる。「桜、sakura、さくら」という 題は難解であるが、路面に散り敷く桜の花びら、石と いう反生命と、華やかではあるが儚さという短命とが 転生しているのかもしれない。そこに時間が感じられ る。だが、なぜそれらは室内に置かれなければならな いのか。私は個人的には丸山富之の「作品」が好きだ。 小部屋の壁面と床の関係がオブジェによって強調され 緊密にされていた。だがそれが全体のテーマの「隠喩 法」をどこまで受けとめているのか。勢いがあったの は、中庭に設置された、スケールの大きい中瀬康志の 「仮設空」であった。梯子が積み重ねられて空に登っ て行こうとする。梯子によって人は上空へ登って行こ うとする。それらの内部に入って上方を見上げると、 木組みの間からもれる光がまぶしい。さまざまなオブ ジェが下方にぶらさがっている。

佐藤時啓の「光 Hiroshima」は統一テーマによく合っているように思えた。照明をすっかり落した空間のなかにスペースシャトルのような物体(バルーン)が浮かび、その胸体に町の刻々と変化する風景が映って行く。建物の外が、今が、内部の沈黙した50年前の闇に、奇妙に静謐に、映る。そこから見る外部の風景は、おそらくすっかり価値変換されているであろう。「隠喩法」を、私はそこに読んだ。風袋宏幸の「ホール・

イン・ザ・ウオール」は、光のささない室内空間に映像を映して、これは空間をいっぱいに活かしているように思えた。岡本敦生の2作「Crust」と「Memorial Volume」は、既に完成した手法で、安定感はあるが、この暗い室内では居心地が悪いように思えた。白御影石は、屋外の、陽光がキラキラ輝く空間が似合うのでないか。組み立てられた石組の一箇所に開いて、中をのぞかせる空洞の闇もそこで生きてくるのでないか。概して、石の作品たちは、屋外に設置されて、光と大気を浴びてほしいように思えた。

この領域のディレクターである伊東敏光の「水景」シ リーズは、水流によって時間を表現しようとしてい た。またその水によって成長する樹木の繁茂も時間と 絡まっていた。思想性は深い。広島は水の都。しかも 8月の酷暑、被爆の人々は水に渇いていた。その水を 伊東は半世紀止まっている時の器としての、この建物 の内部に蘇らせて見たかったのか。そこに植物という 生命が芽生えている。半世紀前この国でベストセラー となった武田泰淳の名作「ひかりごけ」を連想した。 作品が室内にあると、私たちはどうしても鑑賞してし まう。一つの作品の前に立って、まるで仏像や神像を 崇めるがごとく、その外側を切り取ってしまう。だが そこでの最大の隠喩 (メタファー) は内が外となり、 外が内となるいわばメビウスの環である。その内と外 が半世紀前でとまった内部と私たちが生きている現在 とが掛合わさったとき、世界はまるで別のように動き 始めるはずだ。被爆後半世紀の封印されていた時間が、 21世紀初頭の現在とどう共振しているか、そこに隠 喩法(メタフォリク)の場がある。

#### 4. 「芸術展示」の作品たち(2) 平和大通りの風景

「環境芸術領域」は平和大通りで展開された。それは パブリック・アートへの挑戦であった。美術館内の作 品であると、人は美術館に入るとき、既に一種の呪文 をかけられている。展示される作品は「芸術作品」と いう価値をあらかじめ担っている。制度化された場で主観と客観が向かい合う。

だが大通り、広場に設置される彫刻作品は、そのヨコを歩く人の90パーセントはそこに彫刻があることを知らないで通りすぎて行く。広場は公共であり、舗石やビルの壁面や電柱や街路樹と、ゴミ箱やそこらに投げ捨てられている錆びついた自転車と同じ資格で広場に置かれている。そこに、作品が、作家という私という固有性をもって突き出てくる。ここでは出会いは、突然、予期せぬ仕方で、驚きとしてはじまる。人々を繋ぎとめる仕掛け、策略が必要である。受け留めるのは、独我論的自我としての主観ではなく、間主観的自我としての主観である。そこがパブリック・アートの領域である。

もともとこの「環境芸術領域」は旧日銀支店の内部 の「彫刻領域」に所属する計画であったと聞く。だが 建物の外部に溢れ出してよかったように見える。建 物内部の作品ももっと外に出てくるべきだった。「表 象都市 metamorphosis 広島」は空と大地と風を集 めて、自己を語り出すべきである。ただしそうなる と、それが一つのスケールを要求してくる。出品され た作品群はそのアッピール力をどれほど獲得していた か。和田拓治郎の「出世街道」は石組の窪地に遊んで いる餓鬼が造形されていて面白かったが、どこか都会 の片隅にあるポケットパークのエピソードのような感 じがして、現実の空間に挑戦して、そこから抜き出よ うとする力に欠ける。木村東吾の「内包する形状」は 近づいてみると、同型のかぎ型に溶接された金属棒を 組み合わせて、大きな直方体を作っていて、その丹念 な仕事振りに感心した。だが、どこか置物という感じ を免れなかった。残念ながら、私はそのような天候に 居合わせなかったが、光を浴びて乱反射する物体=反 物体に転生する風景があればと思った。加納士朗の 「Untitled」は周囲の公園風景にマッチしているよう に思えた。御影石の存在感が感じられた。ただ、人は あまり気に留めないで通り過ぎてゆくのでないか。パ ブリック・アートには、設置以前のその場所の日常性

を破壊する暴力性が求められるのでないか。

その意味で、吉田樹人の「Cave」は、比治山公園にあるヘンリ・ムーアの「アーチ」を思い浮かべさせる、存在感をもっていた。江田ゆかりの「包容」も、作風も語る言語もちがっていたが、野外の広い空間に置かれるのびのびした開放感が伝わってきた。一つひとつの形状が他の形状と、まるでコトバの尻取り遊びのように、対話しているようでたのしかった。

この領域の統括者前川義春の「穿孔」群に、長年の石の造形作家の力量を見た。御影石からこれほど見事に孔を穿つのは、大変な技術と注意力が必要であろう。離れて置かれた石が、この穿孔の凸の部分円柱と、凹の部分穿孔そのものによって、つながり合っている。私は下関赤間海岸に設置されている高杉晋作の奇兵隊がイギリス艦隊目がけて撃ちこもうとした砲台を思い浮かべた。あるいはインド洋からアラビア湾に向かうアメリカの艦隊の大砲の砲列を思い浮かべた。「穿つ」という行為が、内部を一挙に表に曝け出す暴力性をいつも秘めている。その行為によって前川は何を表に曝け出そうとしているのか。「告発」という語も連想して見た。何を告発するのか。「表象都市metamorphosis 広島」に向けて、である。

#### 5. おわりに

広島市内にも多くのモニュメント、パブリック・アートが設置されている。イサム・ノグチの平和大橋の欄干、先にのべたヘンリ・ムーアの巨大アーチ、比治山公園にある澄川喜一の造形など、スケールの大きな作品がたくさんある。それらに共通しているのは、空と地、風と光(それに水も)をいっぱいに集めて立っている、雄々しさである。人々のこころを、作品の物理的枠を超えて、想像の領域をいっぱいに広げさせてゆく開放感がある。そのことは、室内に置かれる絵画や彫刻にも求められていることであろう。

本プロジェクトがキーワードに「表象」や「隠喩」を選んだのは、そこに世界を作る原点を思ったからであろう。芸術は日常の些事や情愛の世界に逃げ込むのでない。身辺雑記のような作品を作るのでない。世界を作りかえる想像力が必要なのだろう。

(かなた・すすむ 東亜大学総合人間文化学部長、広島大学名誉教授、広島県博物館協議会会長、広島芸術学会代表委員、「表象都市 metamorophosis 広島 芸術実験展示プロジェクト 2003 」アドヴァイザー)

### On Experimental Artworks Exhibition 2003; Imaginary City "metamorphosis" Hiroshima

Kanata Susumu

#### 1. Project Objectives

I welcome Hiroshima City University(HCU)'s new advance on great experiments of the field in arts. In September 2003, the aestheticians and artists who are affiliated with HCU called on scholars and artists both foreign and domestic to assist them in the presentation of a project entitled "The Imaginary City "metamorphosis" Hiroshima; Experimental Artworks Exhibition 2003". The objective of this project was for artists to form an intellectual network in order to reevaluate their own works through the lens of the potential inherent in contemporary art and to contribute to creation of the urban environment of the future. Aestheticians and artists in Japan are still trammeled to cooperate with themselves against a series of obstacles. Hiroshima City University has emerged as a systematic organ capable of providing an outlet for creative individuals to come and experiment together.

This project was composed of two sections, the first of which was an aesthetic symposium entitled "the Meaning of Arts in Hiroshima and its Globality" and chaired by Michio Muto, the Aesthetic Director. This symposium centered on theories and techniques of Modern Art, particularly metaphors, or "Metaphorik". Discussion began with this theme and was extrapolated to cover the potential of fine arts. I participated in this area as an Advisor and delivered a keynote address on "Metaphors and Culture", exploring the metaphorical characters in recognition structure as they pertain to issues in

modern philosophy and aesthetics that began with Nietzsche and achieved prominence again in the 1980s. I also discussed the use of contemporary metaphors in the acceptance exhibition of the architect Daniel Libeskind, recipient of the 5th Hiroshima Prize.

The "Experimental metamorphosis 2003", a compilation by foreign and domestic artists who are active in the Fine Arts Department of Hiroshima City University as well as their up-and-coming students, comprises the second part of the project. Although their work did derided sometimes by critics till several years ago by critics as "not seen in Hiroshima", these artists have been coming into their own. The student-artists have continued to polish their abilities and have received awards at many exhibitions. In addition, their instructors have continued to gain notoriety by holding a series of distinctive exhibitions and private shows over the past few years, pushing the boundaries of art in Hiroshima.

Artists from Japan and abroad have lent their talents to those of the Hiroshima avant garde to produce this dynamic exhibition of the latest in experimental art.

# 2. The Project's Theme - Metaphors and Artistic Experimentation

The excellence of the planning that went into this exhibition is reflected in themes and subject matter it presents. The designation "Imaginary City" is quite

apt. Hiroshima is a city of 1 million bordering on the Seto Inland Sea, not so remarkable physically or geographically in terms of the Japanese archipelago as a whole. This seemingly indistinctive city was the site of an atomic attack on August 6th, 1945. Ever since, the people of Hiroshima have continued to condemn the bombing and demand that nuclear weapons never be used again, a sentiment shared by many throughout the world. Unfortunately, certain policy makers sought to increase their nuclear arsenals, which they viewed as a means of liberation from years of colonial oppression or a tool in the game of deterrente. The task of opposing the trend hinges on the development and empowerment of symbols that communicate the fundamental destructiveness of nuclear weapons. It is no exaggeration to say that this is the true power of art.

The focus of this project is the metamorphosis (transformation, evolution, mutation) of imagination. The term "metamorphosis" is made up of the prefix "meta", which means "to come after" or "to exceed" and "morphosis", which is a noun derivative from the verb "morphein", which means "to take shape". Metamorphosis is not static, rather it is a process of continuous transformation. Symbolically, Hiroshima is also in a state of constant transformation. Only those who have sufferted the bitterness of death itself may know true happiness. Artists who share a bond with Hiroshima share the burden of forging the symbolism of new life, what I expect of the participants in this project. The basic principle of the metaphor is seeing one thing in another. The greatest metaphors, as in tragedies of the old Greek, involve the metamorphosis of happiness into happiness, life into death, and vice versa. This project is designed to see how artists will depict these fundamental changes.

#### 3. Work of Art on Exhibition (1)

— Works from the Former the Former Bank of Japan Hiroshima Brach Office

Art is a collection of metaphors. Works of art are seen as something other than mere objects to be observed, rather as vehicles, conveyors of the imagination. The importance of a work of art lies not in what it is, but in what it inspires. The pieces in both locations of this exhibition were seen from the perspective of the feelings they could arouse and where those feelings led.

The first part of the exhibition was held in the Former Bank of Japan Hiroshima Branch Office located downtown. This building, which was damaged in the atomic attack, housed works of art tasked with recreating the moment of August 6th, 1945. The Painting Area in this exhibition was overseen by Akira Yoshii, while Toshimitsu Ito managed the Sculpture Area.

Mr. Yoshii, Painting Area Director, is a Hiroshima native who played along postbellum river banks as a child. He divides his time between his past and his present teaching art at Hiroshima City University and his project, "a Scene of Calm - memorial place Hiroshima -". Yoshii's recent work centers on aerial views of the city. Though his work depicts Hiroshima as seen down from a position high in the sky, it is not his intention to depict the city from above in a literal sense. In this work an aerial perspective was used to depict Peace Memorial Park as it looks today. Yoshii is actually challenging the viewer to close the distance in his/her mind and see these locations up close. Long gone piles of stone on the riverbanks. Children running through reeds and cattails along the water's edge. In this piece, the very air seems as still as death itself. There are no moving tree, clouds, and human

activity. Is this the scenery drawn by the mind, the canvas of memory? In Yoshii's work, Peace Memorial Park is vital, clean and tranquil, just as it is as still as it surely was on that fateful morning at 8:15 when the bomb fell. Yoshii has succeeded in depicting the duality of the scene - its outside and inside, both existing in a delicate balance that suggests the "calm" of Hiroshima.

Takeshi Kashiwa's "Labyrinthe" series depict a group of nude men walking through an intersection at different speeds in a variety of poses with a dynamic juxtaposition of bold lines and lucid colors. The people in the piece are unaware of their origins or their destinations. This work poses the question of whether or not the "Labyrinthe" in contemporary society is the bustling intersection rather than the solitude of the wilderness. People walking hither and thither, drawn as white rings on the street. These flinty-eyed men, with their lower torsos made up of superimposed images, lack verisimilitude, appearing only as invisible men. One of them stares directly at the viewer. Does he represent the artist? Would it be specious to say that a degree of calm is to be found in this work as well?

"Gefalteter Klang", a sound sculpture by Ulrich Eller, was anything but banal. This piece layered the sound of vehicles on the highway atop that of waves crashing on the shore producing such an effect as a folding sutra text, synthesizing for an instant before fading away into nothingness.

The piece contributed by Peter Tuma is entitled "Hiroshima Still Life". It depicts a garden of bonsai or similar trees located in the corner of an inn or house. This work is a peaceful symbol of a uniquely Japanese civic lifestyle that juxtaposes light and dark. The dark side of the work is titled "Homage". It exudes an atmosphere of death and the past, of dominant/submissive relationships. The light side of the work, in which the bonsai can be seen, is

titled "2003". It counterbalances the dark side with a Japanese-themed pattern and a checkerboard design. The message "Healthy Children" jumps out at the viewer.

The term "Still Life" in Tuma's title is rendered as "Stilleben" in German. Although this term can be translated to simply mean "immobile objects", it is rendered in Italian as "natura morte" and in French as "la nature morte", both of which mean "dead nature" when translated literally. This is a testament to the fact that artists in Europe created works depicting cut flowers, furniture, wine, glass, insects, and birds as allegories in response to historical works, portraits, and divinity figures in an effort to communicate the message "Memento mori" (Do not forget death). In his piece, Tuma used the roots of the Bonsai to communicate the message of love he saw in the still life of Japan and Hiroshima.

The theme of the Painting Area of the exhibition is "Scenes of Calm". In Chinese, "calm" is rendered by writing the characters for "wind" and "stop" in reference to the tension that arises between winds from the land and winds from the sea. I am reminded of the calm I felt when I first came to Hiroshima over 30 years ago. The August heat was stifling, the humidity made me sweat as if I were in a sauna. The smell of death permeating the air after the atomic bomb dropped must have been truly nauseating. I say this not as hyperbole but as a statement of fact. That August morning was undoubtedly a terrifying "Scene of Calm", accompanied by an inescapable stench of decay that seeped from corpses and adhered to the flesh of the living. The dynamic tension of juxtaposition is what Yoshii seeks to capture in his works - his memories and perceptions of the present, the outside and the inside, and the uneasy stress of the solitude that keeps all elements in balance. Kashiwa. Eller, and Tuma contribute their interpretations of

the opposing tension and tranquility. This exhibition highlights the similarities and differences between the work of foreign and domestic artists who have each contributed their own unique variations on a common theme.

The Former Bank of Japan Hiroshima Branch Office also houses the Sculpture Area entitled "Vessels of Time", which is directed by Toshimitsu Ito. In contrast to the abstract images explored in the paintings on display, the sculptures offer literal interpretations, resonating forcefully with the presence of the building itself. The interior of the building is sparse and austere. Although it looks antiseptic at first glance, its atmosphere changes radically with the addition of three-dimensional objects, making it a less than ideal place in which to display sculpture.

Yoshiharu Maekawa, who shares the position of Environmental Arts Area Director with Ito, has been studying buildings damaged by the atomic attack since his arrival at the time Hiroshima City University was established. Maekawa says that The Former Bank of Japan Hiroshima branch Office left an indelible impression upon him the first time he walked downtown in Otemachi where it is located. Ito and Maekawa have attempted to create a creative center in Hiroshima by injecting a dose of the contemporary into this staid area of town. They have convened major exhibitions in other a-bomb damaged buildings throughout the city, including the former Hiroshima University Faculty of Education Library in Shinonome and the former Army Uniform Depot in Ujina. These events. which helped to establish an art scene by attracting artists and young people from inside and outside Hiroshima led to the exhibition described herein. It would not be an exaggeration to say that these exhibitions were the first time that sculptures of buildings damaged in the atomic attack were used

as part of an art exhibition. Presenting these works in the aforementioned locations was not without difficulty, however. The painstaking effort of the exhibitors is on display for all to see.

The title of the Sculpture Area, "Vessels of Time" refers primarily to The Former Bank of Japan Hiroshima branch Office, which was damaged in the atomic attack, but also to each of the sculptures on display. Upon entering the building, visitors are immediately confronted with this project's theme - "Metaphors", a world of images.

The meticulous care that went into the sculpting of Shingo Murai's "Individual", which at first glance looks like nothing more than two rectangular slabs of granite, is readily apparent to anybody familiar with his work. When one of the slabs is seen from above, a concave in the shape of an acute triangular pyramid is revealed. The other slab is equipped with a lid which appears to obscure a concave in the shape of an acute quadrilateral into which a second acute quadrilateral has been inlaid. The image suggests to me a blunt reality and the sculptor's unwillingness to let anything get in his way while carving. Murai seems to be stating that allegory in sculpture, if such a thing indeed exists, is born out of the act of carving itself. I was disappointed that the impact of this piece was diminished significantly by the thick column that goes from the buildings floor to its ceiling, lessening the impact of the shadows cast on the sculpture and distracting visitors to the exhibition.

Shiro Matsui's "Mask" makes use of the former bank building's counter. Matsui has strewn silicone rubber tubing across the floor of the room. The tubing connects to a synthetic board. The board, which is blue on one side and yellow on the other, effectively divides the interior and exterior of the counter. Although the work itself powerfully emphasizes the division between inside and outside.

Matsui has consciously created a space in which the flamboyant interior yields to the exterior, which in turn transforms into the exterior. In stark contrast to masks that only hide the face of the wearer, this piece shows visitors to the gallery that the interior can be nothing more than the outermost edge of the exterior.

The bizarrely-shaped plastic objects d'art by Charles Worthen manage to look like ordinary bits of household junk yet still remain strangely inspiring. Takeshi Hayashi arranged granite slabs in a haphazard fashion to suggest ruins or collapsed rubble. I admit that Hayashi's choosing to call his piece "Sakura" remains an anathema to me, but it may be an attempt to either contrast the organic nature of cherry blossoms scattered on the road with the artificiality of stone or comment on the fleeting beauty and transmigratory nature of the cherry blossom, which conveys the passage of time. This piece poses another question - why must it be indoors? My personal tastes lean toward Tomiyuki Maruyama's eponymous "Work" in which the walls and floor of a small room are emphasized by the objects within in such a way that the entire piece feels more intimate. Still, would such a piece constitute a metaphor? Koji Nakase's "temporary - the sky", a large piece placed in a courtyard, crackles with kinetic energy. Nakase has stacked ladders one atop the other. The Rays that shines through the slats of the ladders when one looks up from inside the piece and sees all the objects d'art hanging down is nothing short of blinding.

I found Tokihiro Sato's piece entitled "Light-Hiroshima" to be quite indicative of the exhibition' s theme. He has created a brightly lit space occupied by a space-shuttle shaped balloon onto which the constantly changing scenery of a village is projected. The exterior of the structure appears to represent the present, the internalized darkness

and serenity of the silence 50 years ago. Seeing the piece from this perspective will surely lead visitors to reevaluate their value judgment of it. This is the aspect of the piece I thought exemplified the concept of a metaphor. Hirovuki Futai, an artist whose work is described in detail in the Environmental Art Area created his piece "Hole in the Wall", by projecting images into a small space devoid of light. I was particularly fond of his use of space. Despite the obvious skilled technique that went into their construction and the stability of the pieces themselves, I felt that the darkness in the room did not flatter Mr. Okamoto's 2 pieces entitled "Crust" and "Memorial Volume". In my opinion, white granite looks its best outdoors where the sunlight can play freely upon it. I believe that an outdoor presentation would also highlight the blackness of the cavity that allows visitors to the exhibition to see inside the piece. The whole thing did little else but remind me of how much better I like stonework when it is outside in the open air with the sun beating down upon it.

In his series entitled "Scenes of Water", Toshimitsu Ito, the director of this area of the exhibition, used flowing water to symbolize the passage of time. His piece also emphasizes how water and the passage of time promote the growth of trees and other vegetation, truly an imaginative work of art. Hiroshima is a city of water. It is thirst that drew the victims of the atomic bomb to the water on that brutal August morning. Perhaps Ito's intention was to use this building as a vessel of time, to recreate the water that ceased to flow over half a century ago, the vegetation growing within symbolizing life. It reminded me of Taijyun Takeda's famous piece "The Luminous Moss".

Our attention is invariably drawn to these works themselves when they are exhibited indoors. We view them to the exclusion of their environment.

staring the way we might observe a statue of the Buddha or another figure of divinity. Viewing art in this way presents a metaphor in which the interior become the exterior and the exterior becomes the interior in a sort of Moebius ring. When the interior and exterior of the ring make contact with one another, like the past of half a century ago colliding with the present in which we live, the world will surely move in a different direction. How will time itself, sealed for over 50 years since the atomic bomb fell, resonate in this, the beginning of the 21st century? This is where it is truly possible to see something metaphoric.

#### 4. Works of Art on Exhibition (2) Scenes of Peace Boulevard

The "Environmental Art Area" was held on Peace Boulevard, providing an opportunity to bring art to the public. When people go to an art museum to see works of art, they are trapped by their preconceived notions as soon as they walk through the door. Everything on display is automatically seen as "art" in a sort of systematized subjectivity. Placing sculptures outside in a public area exposes them to an entirely new audience; 90 percent of the people walking down the street pass by without knowing that anything is on display. In this environment, art is alongside the pavement, the facades of buildings, telephone poles, trees, garbage cans, and hastily-discarded rusty bicycles. By putting art works in this setting, the artist is in effect putting him/herself on display. The encounters between people and art are both unpredictable and characterized by surprise. Getting people to stop and look requires strategy and ingenuity. The realm of public art calls for a sort of universal subjectivity rather than egotistical self-promotion.

I have heard that this "Environmental Art Area" was initially planned as part of the "Sculpture Area" on display inside the former branch building of the Bank of Japan. It seems fortunate that it was allowed out of the building. Indeed, all of the pieces on display should have been displayed in public. "The Imaginary City Metamorphosis Hiroshima" should be an opportunity for artists to express themselves among the sky, the earth, and the wind. Putting all the works of art in public, however, would have required an exhibition of considerable magnitude. How much attention would these works of art have been able to attract? Takujiro Wada's "Road of Advancement", in which hungry ghosts play in a narrow passage between stones was interesting, yet it seemed as though it was like an isolated incident playing itself out in some corner of the city, attempting to challenge the realities of space, yet lacking the courage to truly break free. Seeing Togo Kimura's "The involved form", a piece made up of metal poles welded together at right angles to form a rectangle, from up close made me admire the amount of work it must have taken to create. Still, the piece somehow left me with the impression that it was nothing more than an object. I wish I could have seen it under better weather conditions, when it could have reflected the sunlight, which would have transformed its appearance into something less material. Shiro Kano's "Untitled" seemed tailor made for the surrounding park, which accentuated the presence of the granite in the piece. People, many of whom walked past without giving the piece a second look, seemed largely indifferent. Public art must have a certain sort of violence, an impact sufficient to break the day-today monotony of the location in which it is placed. Shigeto Yoshida's "Cave", which reminded me of the Henry Moore sculpture "Arch" located in Hijiyama Park, had sufficient presence. Although

Yukari Eda's "Tolerance" was a different type of piece that requires different language to describe, seeing it in the open air filled me with a feeling of liberation. I enjoyed seeing this work, which made me feel as if I were having a series of conversations.

Also on display was "Coring" a piece by Yoshiharu be depicted. Imagination that can change the world Maekawa, the director of this area. This piece left me in awe of the competence of this master stoneworker. The technique and concentration required to open holes of this type in granite is considerable. In this piece, stones placed some distance apart are held together by protrusions and indentations. The piece itself reminded me of the cannons of Shinsaku Takasuqi's cavalry on the Akama beach at Shimonoseki, poised to strike the English armada or the artillery of the American fleet crossing the Indian Ocean on its way to the Persian Gulf. The act of puncturing something has a sort of inescapable viciousness, the power required to burst through the interior to appear on the other side. I wondered what Maekawa was trying to force into the open. The piece seemed to be a warning. What was he warning against? He was issuing the warning to "The Imaginary City Metamorphosis Hiroshima".

#### 5. In Closing

There are numerous monuments and works of public art throughout Hiroshima. Many of these, including Isamu Noguchi's balustrades on the Peace Bridge, Henry Moore's aforementioned arch, and Kiichi Sumikawa's sculptures, are quite large. The common thread that runs throughout these pieces as they stand amidst the sky, earth, wind, light, and water is a sort of virility. These works of art possess a sense of liberation that transcends the boundaries of physical matter and expands into the realm of the imagination. These properties are also crucial for paintings and sculptures exhibited indoors.

We chose the themes of "imagination" and "metaphors" for this exhibition because we believed them to be the starting point for the creation of a world. Art must not retreat into the trivialities or emotions of the mundane. Banal works must not

Kanata Susumu

Imaginary City metamorphosis Hiroshima Experimental Artworks Exhibition 2003 Advisor Professor Emeritus, Hiroshima University Dean, Faculty of Comprehensive Human Cultures, University of East Asia Chairman of Council for Hiroshima Prefectural Museums President of Hiroshima Society of Art Sciences



作品展示風景(旧日本銀行広島支店) View of Exhibition (The Former Bank of Japan Hiroshima Branch Office)

### 彫刻領域 [時の器]

Sculpture Area: Vessel of time

1994年冬、広島市立大学の初めての入試準備で広島市内に滞在した私は、たまたま通りがかった旧日本銀行広島支店の前で突然、異質な圧力を感じた。後から考えれば、広島の中心部には歴史を感じさせる古い建物がほとんどなく、同じようなビルばかりの中に旧日銀だけが古びた姿で在るために、懐古状態に陥ったのだろうと推測できるが、あの時私が感じた圧力は、そのためだけではなかったと思う。ある出来事をさまざまな情報として知覚すること、それに対して自分なりのスタンスで向き合うこと、そしてそれが

対して自分なりのスタンスで向き合うこと、そしてそれがいつの間にか意識の表層から消えていくこと。そんなことを繰り返しながら、私達は日々を過ごし、自己を構築している。あの異質な圧力は、整理され次第に潜伏していった私の知覚が、旧日銀という歴史の痕跡に刺激され、ランダムにそして突発的に表出したことによる波動のようなものだったのではないか。

私は芸術作品と向き合う際にも、幾度か旧日銀の時と似た感覚に襲われたことがある。今回彫刻領域において制作をお願いした作家は、以前私にそのような感覚を与えてくれたことのある作品の作者である。それはたとえば水で満たされた容器と空の容器との違いの様に、視覚的にはほとんど差がなくても確実に感じられるものである。

今回の旧日銀における展示で、企画者として、あの異質な 圧力を表現出来たとは思っていない。ただ今は、ディレク ターとしての力の無さを痛切に感じながらも、各作家の作 品と展示空間が、広島における展覧会の一つのビジョンを 示してくれたことに大きな希望を抱いている。

被爆建物である旧日本銀行広島支店には、私達の歴史や精神が高密度で溶け込んでいて、創造力を持った人間がその空気に接すると、混沌とした空間の中から物事の本質的な事象が非 - 作為に表出してくる。私の中では旧日銀が、芸術行為によってすでに創造的表象を獲得し、私達人間にとっての「時の器」、「精神の器」として存在している。

彫刻領域ディレクター 伊東敏光

In the winter of 1994 I was staying in downtown Hiroshima and preparing for my first entrance exam to Hiroshima City University. When I happened to walk past The former Bank of Japan Hiroshima Branch Office, I was gripped by a strange pressure. Looking back I can only speculate that the sight of the old

bank, standing along amidst row after row of identical buildings, must have sent me into a fit of nostalgia and longing.

An event is interpreted as a series of sensations, in response, the person who received the information forms an opinion regarding the incident, only to have it disappear from his conscious mind sometime thereafter. As human beings, our personalities are forged through endless repetitions of this process. Seeing the scars of history in the form of the old bank building stimulated my repressed senses, causing me to feel mysterious pressure as soon as my mind organized the stimuli, which flowed through me randomly and without warning.

I have felt this same feeling several times thereafter while viewing works of art. The artists invited to present their pieces in the Sculpture Area were individuals whose pieces had produced this feeling in me in the past. Like the difference between an empty vessel and a vessel filled with water, this feeling is real even if it cannot be visually perceived.

As a planner, I do not feel as though I succeeded in expressing this strange pressure through this exhibition at The former Bank of Japan Hiroshima Branch Office. I am filled with feelings of helplessness over my abilities as a director and hope because of the vision presented by the artists and their work at the exhibition in Hiroshima.

Having suffered atomic damage, the building that used to house The former Bank of Japan Hiroshima Branch Office is steeped in our history and spirituality. When creative individuals come into contact with such a place, an innate phenomenon rises from the confusion, bringing inconsistent actions to the fore. In my opinion, the former Bank of Japan building has, through artistic expression, achieved status as an icon of creativity, and exists as a "vessel of time" or "vessel of spirituality".

Ito Toshimitsu, Sculpture Area Director

### 絵画領域 [凪の情景]

Painting Area: a Scene of Calm

絵画領域における平面造形の制作方法論として、「凪の情景」 という隠喩法を設定した。

一般に芸術には、それぞれの時代にトポスを占めるという意味で、一種の歴史的構造連関に縺れこむ進化と創造機能がある。今日的な視座では、その根幹に合理と歴史を見渡しうることが可能となったといえよう。ところで、その現況のなかにおいて絵画は、もはや平面造形の限界として指摘する見方もある。ここで、平面造形の可能性を求めて、敢えて、広島が目的とする「平和」に内在するその真の意識としての自覚「再生」、「復活」を底流としたイリュージョンの追求を絵画領域の全体テーマとした。

協力研究者構成、国内では柏健(金沢工芸大学大学院教授)、 海外では Peter Tuma、Ulrich Eller (ドイツ・ハノーバー 専科大学教授) 以上3名。

まず、絵画領域における実験制作の本旨を広く理解してもらうために、芸術実験展示に先駆けて、アンテナ・ワークを広島宇品港新ターミナル2Fスペース(2003年6月7日~9月27日実施)にて開催した。研究内容は、プレゼンテーション(2003年6月7日~7月7日、パネル約30枚による研究紹介及び協力研究者の紹介)と、公開制作(2003年7月8日~9月27日、8.1×2.0mの絵画制作)を行った。

その後、芸術実験展示(2003年9月27日~10月26日)の旧日本銀行会場において、各研究者の制作方針のもとに平面造形(音響造形を含む)計画を展開。絵画領域の展示は、全て地階で行われたが、被爆を直に受けながら残った歴史的建造物の意味あるスペースであり、各研究者はその目的を直視できた場所であった。芸術実験展示によって発表することにより、なによりも第二世代としての提言を確信することができたのではないかと思う。

絵画領域ディレクター 吉井章

"a Scene of Calm" is the metaphor selected as the methodology for the flat forms exhibited in the Painting Section.

In general, there is progress and creative functionality in the arts through the association of certain historical constructs which define certain eras almost as part of their topography. From a modern perspective, it can be said that this basis is useful for seeing a sort of

logic and history. Still, some people are of the opinion that the contemporary position occupied by paintings is the limit of flat forms of art. "a Scene of Calm" was selected as the overarching theme of the illusions at the heart of the Painting Area in order to expand the potential of planar art and awaken the "rebirth" and "regeneration" that form the basis of the actual consciousness of achieving peace, the aspiration of Hiroshima.

The group of contributing scholars consists of three members: from Japan, Takeshi Kashiwa, a professor at the Graduate School at the Kanazawa College of Art, and from abroad Peter Tuma and Ulrich Eller, professors at University of Applied Sciences and Arts, Hanover.

In order to promote a greater understanding of experimental creativity in the Painting Area in anticipation of the main experimental art exhibition, an antenna work exhibit was held the Hiroshima Ujina Port Terminal 2F Space from June 7th-September 27th, 2003. At this exhibition, a presentation was shown from June 7th-July 7th that consisted of approximately 30 panels introducing scholars and contributing scholars. A demonstration of the making of a 8.1x2.0m painting was held from July 8th-September 27th.

Afterwards, plans were made for the exhibition of flat forms of art (including sonic sculptures) during the Experimental Art Exhibition at The Former Bank of Japan Hiroshima Branch Office (September 27th-October 26th, 2003) was held under the direction of each scholar. All paintings were exhibited on the ground floor of the building, which was directly damaged in the atomic attack. All the scholars were able to see first-hand the purpose and meaning behind holding the exhibition is this historic space. I am certain that presenting at the Experimental Art Exhibition will give a voice of the second generation born after the bombing of Hiroshima.

Yoshii Akira, Painting Area Director

#### 環境造形領域 [平和大通りへの提案 一彫刻的視点からー]

Environmental Art Area: Proposal for Peace Boulevard from the Viewpoint Sculpture

このプロジェクトが始まった当初、実験展示は旧日本銀行 広島支店(旧日銀)全館を使い絵画と彫刻領域からの作品 展示とする予定であった。しかしその後いくつかの理由か ら彫刻領域がさらに屋内と野外、すなわち旧日銀と平和大 通りでの展示に分けられ後者を環境芸術領域とした。

彫刻分野で使用される素材は野外での展示にも耐えるものが多く、彫刻の持つ可能性を最大限に生かした多様な表現を試みる実験展示としたかったのが第一の理由である。第二にこのプロジェクトの構想段階で、広島市が平和大通りの全面改修案の作成を始めており、時代に則した機能、デザインとともにその有効な活用方法についても度々話題に上がっていた。また大通りの中心部に位置するイサム ノグチの二つの橋、平和大橋、西平和大橋の保存、架け替えの問題では芸術と都市環境について多くを考えさせられる時期でもあった。この時すでに旧日銀は芸術活動の場として活用されることが決まっており、私たちは平和大通りが旧日銀とともに将来、芸術活動の場として活用されることを望み、実証展示をすることで平和大通りへの彫刻的視点からの提案とした。

実験展示を終えて今思うことは、平和記念館や原爆ドームに対峙し作品展示をしようとする時、あまりにも耐え難く重い感覚に捕らわれることである。作品はかつて世界に類を見ない悲惨な歴史の前でその存在の意味を問われるであるうし、また人為的な負の痕跡は私たちに人間の在り方そのものを問いただしてくる。この命題はあまりにも重く、大きなものであるが私たちはこれを避けて通るのではなく、正面から答えていかねばならないのだろう。今後、この命題に世界の芸術家が取り組み解答を導き出す場となることを望んでいる。

環境芸術領域ディレクター 前川義春

When this project began, the intention was to use the entirety of the former Hiroshima branch building of the Bank of Japan in order to exhibit works of experimental art in two areas - paintings and sculptures. For several reasons, the decision was made to divide the areas, showing some of

them indoors in the former bank building and the rest outdoors on Peace Boulevard in a so-called "Environmental Art Area".

The first reason for showing some pieces is that

many sculptures are made of sturdy materials that

can withstand the elements, making it possible to use

the diverse potential for expression in an exhibition

of experimental art to its fullest. The second reason

was that when this project was in the planning stages the City of Hiroshima had begun a plan for the total revision of Peace Boulevard, which made us want to explore the possibilities of the effective use of contemporary functionality and design. Isamu Noguchi's Peace Bridge and West Peace Bridge were also being maintained and reconstructed at this time, making it a time to reflect on the issues raised by art and the urban environment. By this time it had already been decided upon that the former bank building would be used as an exhibition site. We hoped to be able to use the Peace Boulevard in the same fashion, and issued a proposal for doing so. Looking back on the Experimental Exhibition after the fact, I have to say that works of art put on display in the shadow of the Hiroshima Peace Memorial Museum and the Atomic Bomb Dome tend to be overwhelmed by the gravity of their surroundings. The importance of the pieces is evaluated in comparison with monuments to one of the greatest tragedies in human civilization. These scars, inflicted as they were by mortal hands, ask questions about human existence itself. Daunting though it may seem, we must not shy away from these questions, but confront them head on in order to find answers. It is my fervent hope that artists the world over will continue to use this space as an

Maekawa Yoshiharu, Environmental Art Area Director

area to seek resolutions to the challenges faced by

humanity.

図版 Plates

#### 凡例:

- 1. 作家ごとのページにある作品情報は、《作品名》/作品名英語/制作年/サイズ/素材/素材英語の順を基本に掲示した。
- 2. サイズは、立体作品では「幅×奥行×高さ」の順に掲示した。平面作品では「幅×高さ」の順に掲示した。インスタレーション作品では、必要と思われるもの以外は割愛した。
- 3. 作品解説は、藤井匡による。

#### Note:

- 1. TInformation on the art works on each artist's page is listed in the following order: title (in Japanese), title (in English), year, size, materials (in Japanese), materials (in English)
- 2. The size of three-dimensional works is shown as "width x depth x height" and two-dimensional works as "width x height."

  The size of installation works is shown only when indicated by the artist.
- 3. Texts pertaining to the art works were written by Fujii Tadasu.



photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu

## 村井 進吾

#### Murai Shingo

花崗岩によるミニマルな彫刻を制作してきた村井進吾は、今回、ほとんど同一サイズ・同一形態の二点を並置する。一点は、垂直方向から二つの石を嵌め込ん で直方体へと戻したもの、もう一点は、垂直方向に空洞を穿ったものである。内部までが一律に詰まった石という素材では、表面が存在全体を表象する。視覚 的に近似する (個体) 二点は、差異を通して、見えるもの(表面)と見えないもの(内部)との関係を問うものとなる。

A minimalist sculptor who works in granite, Murai Shingo has contributed a piece that consists of two pieces of granite of identical size and shape arranged in parallel. Two stones are inlaid vertically in one of the pieces of granite, restoring its rectangular shape. The second piece of granite has a vertical cavity carved into it. The use of stone, which is normally a solid material that derives its presence from its entire surface is quite symbolic. The point of these pieces is the subtle contrast between the seen (surface) and the unseen (interior) in the visually similar slabs of granite.

1.

《個体 1》

《個体 2》 Individual 2 Individual 1

2003

2003

2.

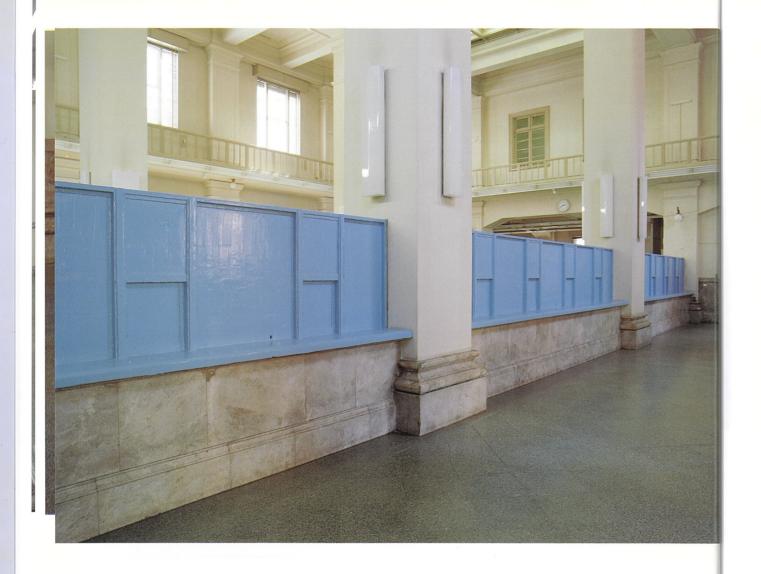
60 × 60 × 153cm

60 × 60 × 153cm 御影石

Granite



photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu





### 松井 紫朗

Matsui Shiro

松井紫朗の、近代彫刻を逸脱するような形式の作品は、彫刻を根底から問い直すことに由来する。《MASK》は、シリコンラバーのチューブに表裏の見える平面が連続する作品。銀行のカウンターという、一見には内/外の境界が明瞭な場所の上に、内側と外側とが連続する決定不能な空間がつくられる。それは、内/外や彫刻/空間といった自明とみなされるものが、実際には、見る者の属する社会の慣習に依存するに過ぎないことを教える。

Matsui Shiro's pieces, whose format deviates from that of modern sculpture, derive from a desire to revaluate sculpture itself from its foundations. "MASK" is a piece that consists of a continuous visible surface to which silicon rubber tubing has been connected. The piece divides the counter of the bank, whose interior and exterior is usually obvious at a glace into an obscured space. This piece teaches those who view it that concepts of interior/exterior and sculpture/space depend on the society to which the viewer belongs.

3. 《Mask》

Mask 2003

2003 シリコンラバー Silicon rubber



《Grappo》

25x36x34cm プラスティック、ボールペンインク Plastic, Ballpoint pen ink

Grappo

2003

チャールズ・ウォーゼン Charles Worthen

7. 《Mugmug》 **《Sloop》** 《French Boy》 《Bowknod》 French Boy Sloop Mugmug Bowknod 2003 50x27x54cm 16x19x32cm 29x24x48cm 31x18x23cm プラスティック、ボールペンインク プラスティック、ボールペンインク プラスティック、ボールペンインク プラスティック、ボールペンインク Plastic, Ballpoint pen ink Plastic, Ballpoint pen ink Plastic, Ballpoint pen ink Plastic, Ballpoint pen ink 9. 10. 11.

《Erm》

2003 22x18x48cm

プラスティック、ボールペンインク

Plastic, Ballpoint pen ink

Erm

《Tass》

Tass

2003

19x21x29cm

プラスティック、ボールペンインク

Plastic, Ballpoint pen ink



樹脂とインクとによる、工業製品的な表面と形容しがたい有機形態。それらは、ポップでユーモラスでありながらも、鑑賞者をどこか不安にもさせる。チャー ルズ・ウォーゼンは日常で目にする様々な事物を拡大・結合・切断し、言葉に結晶化する以前の、非日常的なイメージを提示する。作品像は焦点を結ぶことなく、 宙吊りのままに置かれる。今回の展示では、それらは、支店長室や応接室の装飾された部屋の価値を脱臼するように存在する。

Using resin and ink to fashion inexplicable organic forms that resemble industrial products, Worthen makes pieces that are hip and humorous yet somehow make viewers uneasy. By enlarging, joining, and dissecting household objects, Worthen imbues them with an extraordinary quality that cannot be described in words. His works of art hang in mid-air without a unifying focal point. Worthen has brought his distinctive sense to the exhibition in order to shatter perceptions of decoration in the bank branch and its waiting room.

8.

《Nutcoco》

Nutcoco

2003 21x24x41cm

プラスティック、ボールペンインク

Plastic, Ballpoint pen ink



photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu



伊東敏光の彫刻は、常に、現実と非現実の境界を揺るがすように存在する。今回出品された滝や湖をモチーフとする作 品では、「閉じられた表面に規定される完結体」という彫刻と、限定されないままに外延していく風景という、相反す Ito Toshimitsu るものが接触する。彫刻化された風景は、周囲から切り離され、主体としての性格を帯びる。この性格は、さらに、作 品を含む展示場所にも、個体としての存在感を形成するように機能する。

> Ito Toshimitsu's sculptures exist to blur the line between the real and unreal. The piece that he has contributed to this exhibition, which focuses on waterfalls and lakes is entitled "Restricted Complete Bodies in a Sealed Surface". His work provides the opportunity to observe the contradiction between continuous expansion in scenery. The scene that Ito has sculpted is cut off from its surroundings, forcing into the role of the focal point of the piece itself. This work of art serves to emphasize the presence of the exhibition hall as a self-contained individual space.



photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu

14 15 16 13

#### 《水景と私の指(紫)》

Waterscape and My Finger - Purple -

116 × 5 × 180cm ガラスに油彩等 Mixed media on glass

#### 12. (前ページ)

#### 《一郎の滝》 Waterfall of Ichiro

2002 160 × 430 × 155cm 黒御影石、鉄に亜鉛メッキ Granite, Steel plated with zinc

#### 《水景と私の指 (桃色)》 Waterscape and My Finger - Pink -

2003 116 × 5 × 180cm ガラスに油彩等 Mixed media on glass

#### 13.

#### 《水景と枇杷の木》 Waterscape and Loquat Tree

2003 170×500×213cm 黒御影石、鉄、銅 Granite, Steel, Copper

16.

### 《水景と私の指(青)》

Waterscape and My Finger - Blue -

2003 116 × 5 × 180cm ガラスに油彩等 Mixed media on glass





林 武史 Hayashi Takeshi 17. 《桜、sakura、さくら》 Cherry blossoms 2003 450×360×27cm 御影石、鉛 Granite, Lead photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu

林武史の花崗岩を連続的に配置する作品は、全体像が一瞬で把握されるのではなく、部分を連続的に目で追うことで現れる。彫刻空間は、石同士のズレの集積によって発生するのである。(桜、Sakura、さくら)は、割った石を内側へと彫り進め、鉛の上に伏せた状態で配置する作品。床と接する石の底辺は、制作のシステムに沿って自ずと導かれたものながら、石=重量物のイメージを解体し、場所そのものを軽やかなものへと変容させる。

The essence of Hayashi Takeshi's piece, made up of consecutively arranged slabs of granite, cannot be grasped at a glance. It must be slowly traced with the eye, ascertained bit by bit. The spaces in the sculpture is created by the accumulation of subtle gaps between the slabs. "Sakura" consists of split stones carved towards the inside and arranged so that they are lying atop a lead plate. The base of the stones touching the floor, in accordance with the internal logic of the piece itself, deconstructs the perception that stones are heavy objects and serves to lighten the atmosphere of the place itself.

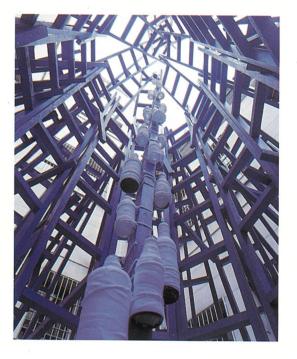
36



18

中瀬 康志 Nakase Koji

18. 《仮設 一 空》 temporary - the sky 2003 木、塗料、その他 Woods, Paint, Others



中瀬康志は、開放的な空間性をもつ構築物とオブジェとを結合させた、インスタレーションを展開する。それは、モノとモノとの関係の考察が、解体されつつある構築物と凝集されたオブジェに結実したものである。今回、中庭で行われた (仮設・空)では、青く塗装された梯子の集積と梱包されたビンとが、天空と建物とを結ぶように組み合わされる。このとき、時間/記憶の静止した場所に、再び循環のダイナミズムが引き起こされる。

Nakase Koji has contributed pieces with spatial freedom that are an amalgamation of structures and objects. These pieces of work embody the observation that the relationship between two things is the product of continuously deconstructing structures and converging objects. In his piece "temporary - the sky", on exhibition in the courtyard, a collection of blue painted ladders and wrapped bottles combine to form a connection between the sky and buildings. This work produces a dynamic cycle in the midst of a place where time and memory have ceased to move.

38



photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu

### 丸山 富之 Maruyama Tomiyuki

丸山富之は、砂岩をL字型などに薄くなるまで彫り進めていき、彫刻(彫り残された部分)と併せて、その手前の空間(彫 り捨てられた部分)を喚起する作品を制作する。このとき、表面は形態を確定するものではなく、彫刻と空間との境界 の意味を担うことになる。今回の三つの作品は、自然採光の、独立した一部屋ずつに展示される。それは、物体として 場を占めると同時に、それぞれの部屋の大きさや空間的密度を身体的に測る指標となる。

Maruyama Tomiyuki carves sandstone until it is thin, fashioning it into the letter "L" and other shapes. These shapes are placed beside the piece of stone from which they were carved in order to accentuate the space in front of them. The surface of the sandstone stops defining the form of the piece and becomes a border between sculpture and space. The three pieces on display in this exhibition are shown in individual naturally lit rooms in order to occupy space as objects while providing barometers for the measurement of the size and spatial density of each room.

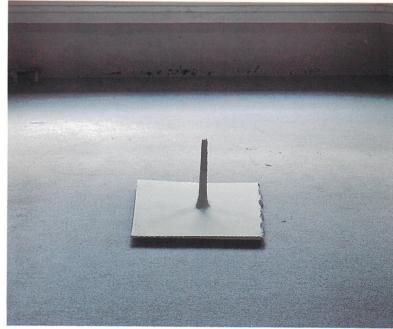


photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu

20. 《作品 03-85》 Work 03-85 2003 34×33×20cm 砂岩 Sandstone

20



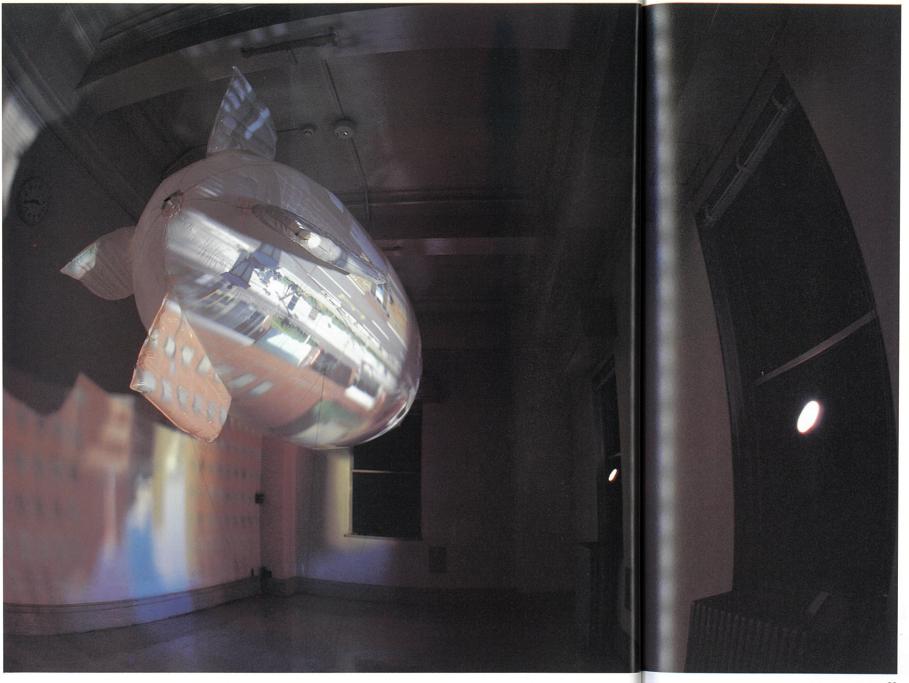
photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu

21. 《作品 03-86》 Work 03-86 147 × 20 × 56cm

Sandstone

21

19. (前ページ) 《作品 02-81》 Work 02-81 2002 99 × 62 × 61cm Sandstone .







22. 《光 Hiroshima》 Rays - Hiroshima 2003 レンズ、パルン、その他

Lens, Baloon, The others

佐藤 時啓 Sato Tokihiro 佐藤時啓は、ピンホールカメラの映す光景を、鑑賞者が暗室の中で直接的に体験する作品を、各地で現地制作してきた。それは、一義的な意味に収斂しない、 場所の意味を思考させる装置となる。(光 Hiroshima)では、外部の光景は、飛行船のような形のスクリーンに映し出される。広島を象徴する歴史的事件と日常生活の現在性とが折り合わせられた映像は、この一室を、過去と現在を往還しながら思考する場所へと変容させる。

Sato Tokihiro uses a pinhole camera to project visions he took at various locations into a dark room. The dark room becomes a space for visitors to directly share experiences. These images do not converge on any one specific meaning and are intended as a device to make viewers to the exhibition consider the meaning of places. In his piece "Rays - Hiroshima", images are projected onto a screen in the shape of an airship. These images, which juxtapose modern daily life with symbolism of Hiroshima history transform the room into a place in which the viewer considers the meaning of the piece while traveling between the past and the present.



Okamoto Atsuo

岡本 敦生

23.

《Crust - cocoon03》 Crust - cocoon 03

2003 110 × 200 × 185cm 白御影石 White granite



《Memorial Volume - Turtle》 Memorial Volume - Turtle

2001-2003 65 × 45 × 120cm 白御影石 White granite



花崗岩を分割・再構成する過程に、自身の記憶を封印する作品を制作してきた岡本敦生は、新たな試みとして「World Turtle Project」を開始した。これは、 分割した石を世界各地に発送、一定期間後に回収して組み上げるもので、石にはそれぞれの場所での記憶が痕跡されることになる。プロジェクトは主にインター ネットを通して進められるが、組み上げられた石は、情報として得られる均一な世界とは異なる、〈現実〉の世界を表示する。

Through the process of splitting and rearranging granite, Okamoto Atsuo has produced works of art that seal away his own memories. Okamoto's newest venture is the "World Turtle Project", which involves sending split stones to various locations around the world and having them returned after a certain period of time. The stones, which are imbued with the memories of the places to which they were sent, are then assembled. Although the project is mostly conducted over the internet, the stones are a physical world that contrasts with the homogenous world obtained as information.



吉井 章

Yoshii Akira

#### 《凪の情景"記憶の地 広島"》

a Scene of Calm - memorial place Hiroshima -

2003 810 × 200cm 油彩、キャンパス Oil on canvas

吉井章の考える「凪の情景」とは、無風の弛緩した状態ではなく、多方向からの力が均衡した緊張状態を意味する。それは、可視的なものの背後に、不可視の 何かを探る志向に由来する。(記憶の地 広島) は、極端に横長でL字型の画面(鑑賞者の身体的と関わる)に、平和公園を中心とする風景を俯瞰的(超越的) な視点から描く。この相反するものの結合は、断片的記憶の集合と歴史的なパースペクティヴとが均衡した広島像を生み出す。

According to Yoshii Akira, "a Scene of Calm" refers not to the slack produced by a windless environment, but to the tension produced by four equal forces pulling in all directions simultaneously, rooted in the desire to seek out the invisible forces behind visible phenomena. "memorial place - Hiroshima -" consists of a ridiculously wide letter "L" screen (indicating a physical relationship with the viewers) and an aerial (transcendental) view of Hiroshima with Peace Memorial Park at its center. The connection between this contradiction produces a balanced image of Hiroshima from fragments of memories and historical perspective.

### ウルリヒ・エラー

#### Ulrich Eller

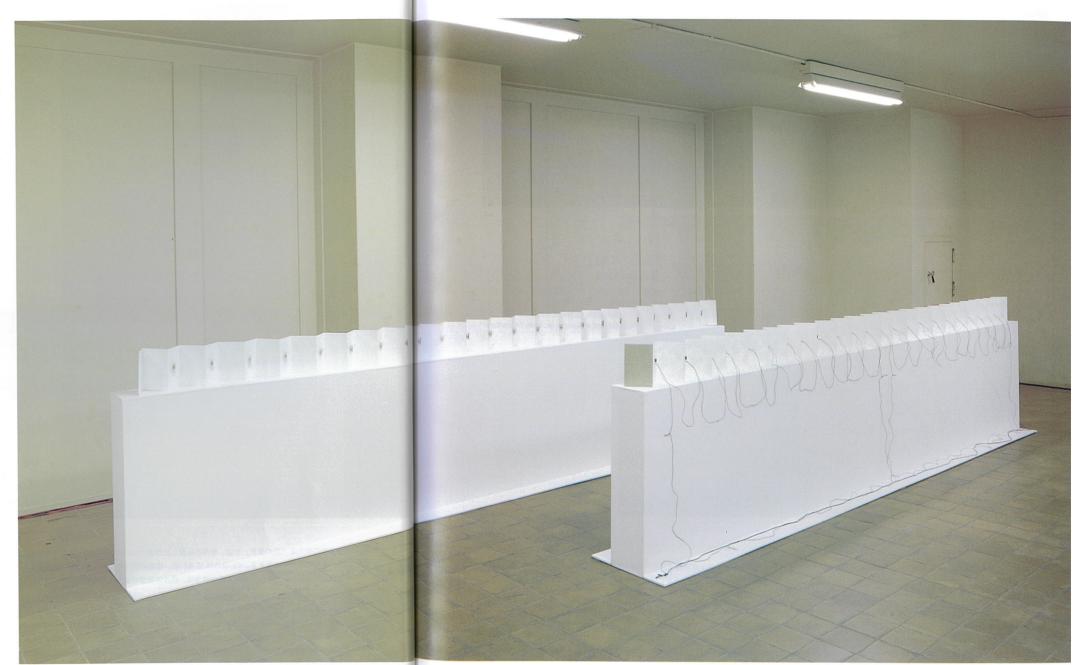
音響インスタレーションの作家ウルリヒ・エラーの (折りたたまれた音 (響)) は、規則的に折られた紙に反復的にスピーカーをとりつけ、寄せては返す波の音 (実際には高速道路の自動車音を加工したもの) を流す。ユニットの二列の配置は、視覚的にも聴覚的にも、さらなる反復感を形成する。 経折本の使用によって、日本的イメージの作品に見えるが、スピーカーは韓国製品、音はカナダで採取されており、〈現実〉の日本とも繋がっている。

"Gefalteter Klang" by a sound sculptor, Ulrich Eller consists of systematically folded paper to which speakers have been repeatedly attached and through which waves of sound (actually altered sounds of automobiles on the highway) are passed. The dual-row layout of the unit stimulates the viewer both visually and aurally, creating a greater sense of repetition. Eller's use of a folding sutra book to evoke a Japanese atmosphere succeeds in establishing a connection with modern Japan even though the speakers are Korean and the sounds were recorded in Canada.

6.

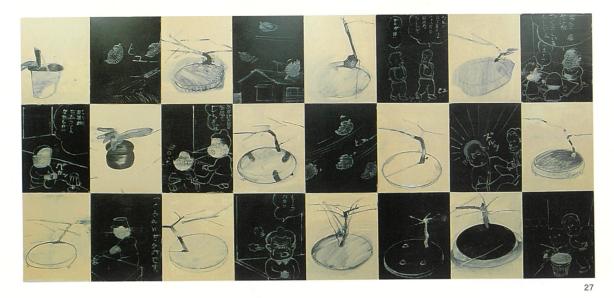
《折りたたまれた音(響)》 Gefalteter Klang

音響インスタレーション Sound installation



26

48



27.

《健康なこども》

Gesundes Kind

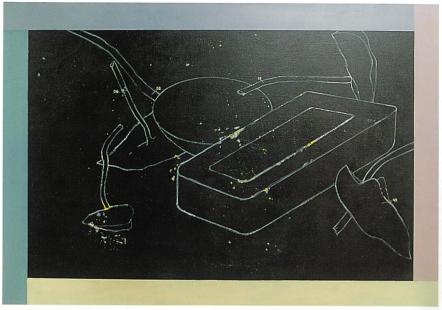
2003 43 × 53cm each 24 枚、ボール紙に油彩、工業用ラッカー 24 paintings, Oil and industrial lacquer on carton

### ペーター・トゥーマ

#### Peter Tuma

現代的な日本と伝統的な日本 — その両方に関心があるというペーター・トゥーマが選んだアイコンは漫画(天才バカボン)と松の盆栽。前者は一枚の画面が グリッドで仕切られ、二つのイメージが市松模様に組み合わされる。後者は同一構図から派生するイメージが、線や色彩を異にする二枚に描かれる。こうした、 一つのイメージの分裂・拡散は、画面内のカリグラフィックな文字や、作品とタイトルとの関係によって、さらに増幅される。

The icons chosen by Peter Tuma, who is interested in both modern and traditional Japan, were the comic book "Tensai Bakabon" and miniature pines. In his former piece, a single canvas has been divided with a grid and printed with two images in a checkerboard pattern. Tuma's latter piece involves the same basic concept but uses two canvases with different lines and colors. The effect of dividing and scattering a single image is enhanced through the use of calligraphy on the canvas and the relationship between the pieces and their titles.





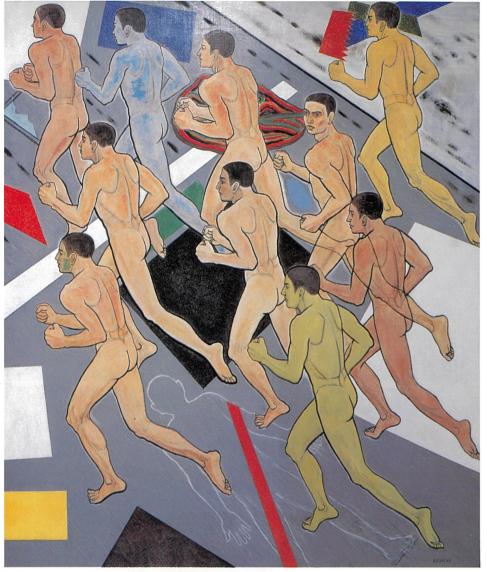
《広島の静物 / 吉川へのオマージュ》 Hiroshima Still-Life / Hommage à Kikkawa

190 × 130cm 油彩、キャンバス Oil on canvas

29.

《広島の静物 / 2003》 Hiroshima Still-Life / 2003

2003 190×130cm 油彩、キャンパス Oil on canvas



30

### 柏健

Kashiwa Takeshi

柏健は、複雑で不透明な現在の社会状況における、不安さを起点とする絵画を制作する。《ラビラント》では、どれも、 人間が集団的に迷走する様子が描かれる。ここでは、色彩・タッチ・トーンなどが抑制されることから、画面内の運動は 深さ(内面)に向かわず、外へと向かう。柏健における「描くこと」は外部に対する主体の投企である一方で、その「描 かれたもの」は鑑賞者に自らの実存へと目を向けさせるという関係をつくる。

Kashiwa Takeshi produces paintings centered on the feelings of anxiety that run rampant in today's complex and uncertain society. All of his pieces in the series "Labyrinthe" depict groups of humans roaming about in confusion. The muted colors, techniques, and tones drive the depth of movement on the canvas outwards instead of inwards. "Portrayal" in Kashiwa Takeshi's works is not only the act of painting an object to be viewed from the outside, but also causing those on the outside to consider their own existence through the observation of the object "portrayed".









31.

#### 《ラビラント A》 Labyrinthe A

2003 227.3 × 181.8cm 油彩、キャンパス Oil on canvas

3.

#### 《ラビラント C》 Labyrinthe C

2003 259.1 × 193.9cm 油彩、キャンパス Oil on canvas

30. (前ページ)

#### 《ラビラント》 Labyrinthe

2003 162.2×193.9cm 油彩、キャンパス Oil on canvas 《ラビラント B》

### Labyrinthe B

2003 227.3×181.8cm 油彩、キャンパス Oil on canvas

34

#### 《ラビラント D》 Labyrinthe D

2003 259.1 × 193.9cm 油彩、キャンパス Oil on canvas

35.

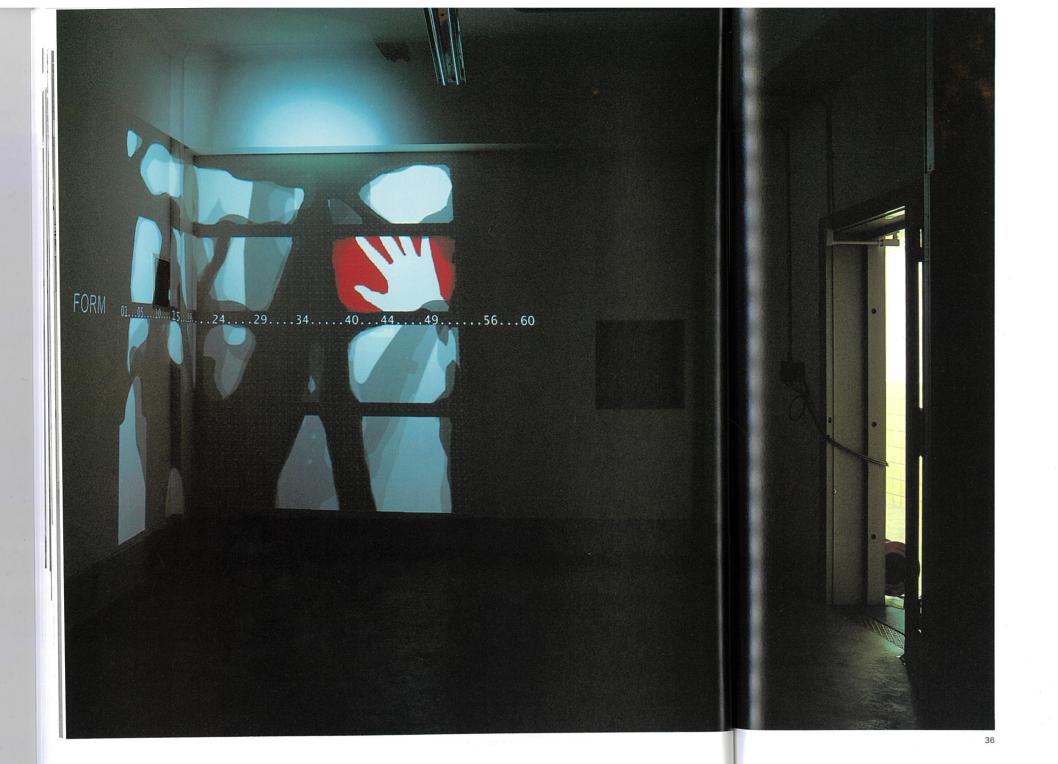
#### 《ラビラント E》 Labyrinthe E

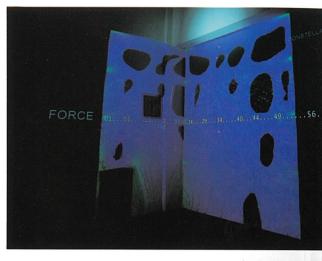
2003 259.1 × 193.9cm 油彩、キャンパス Oil on canvas



1000000

52







風袋 宏幸

Futai Hiroyuki

《Holes in the Walls》

Holes in the Walls

2003 映像インスタレーション Digital image installation

建築家として活動する風袋宏幸の映像インスタレーション《Holes in the Walls》は、最小限の面積による構造壁を求める、力学シミュレーションを下敷きとする。 現実の建造物の壁に映像の壁が投影され、その壁に空けられた穴に広島の地理的イメージがオーバーラップされる。それは、何者もの意思を超えて、自然発生 的に自己生成/解体していくように見える、都市という存在を読むための枠組みを提供する。

"Holes in the Walls", the visual installation by architect Futai Hiroyuki is based on an exercise in dynamics that seeks to find the smallest possible wall surface for a structure. Futai projects walls of images onto actual walls. Holes have been opened in these walls, and geographical images of Hiroshima are overlapped onto the holes. This piece offers a framework to interpret the city which seems to spontaneously form and deconstruct itself, beyond the inexplicable intentions of humans.



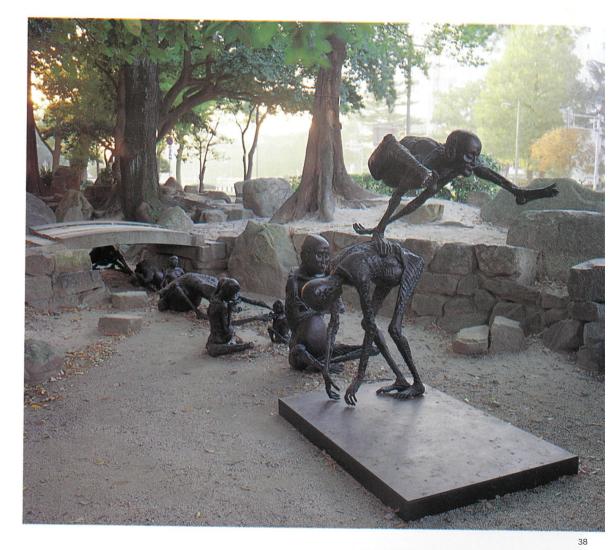
和田 拓治郎 Wada Takujiro

37.

《名人芸》

a mastery performance - put a toe ring by the mowing -

2003 100 × 200cm 写真 PhotoGraph



### 《出世街道》

The highroad to success

2003 100 × 500 × 180cm

38.

和田拓治郎は、人間の欲望をテーマとする「餓鬼像」の連作を行ってきた。それは、欲望を〈意味する〉 と同時に、欲望が〈意味される〉という二重性を帯びている。やせ細った手足、ふくらんだ腹部―― それは、広島での事件とリテラルに繋がるものと捉えられやすい。しかし、今回は、平和大通りの 一角に残された旧国泰寺の枯山水跡に展示されることで、時間の流れに沈んだこの都市の深層に、 垂直に降りていく場を形成する。

Wada Takujiro produced a series of pieces focusing on human greed entitled "Images of Hungry Ghosts". His series of work has a dual focus - what greed means and what is meant by greed. It is simple to make a literal connection between emaciated limbs and distended bellies and the incident that occurred in Hiroshima. Since this exhibition is being held at the ruins of the Karesansui (dry garden) on the site of the former Kokutaiji Temple, the pieces on exhibition constitute a place for vertical descent into the depths of this city, sunken as it has in the depths of time.

### 木村 東吾 Kimura Togo



木村東吾は、長さ 10cm ほどの鉄片をランダムに熔接していき、直方体のヴォリュームを形成する。しかし、この直方体は空気を透過させ、背景を透かし見せるもので、場を占めるのではなく、場と親和するように存在する。(内包する形状)は、直方体の内部が円筒形に抜かれたもので、場所との親和性がより高められる。今回の野外展示では、作品内に交錯する光と影が、時間・天候に合わせて、街の景観と同調しながら移り変わっていく。

Kimura Togo constructed a rectangular structure by randomly welding together a series of 10 cm pieces of scrap iron. The rectangular structure exists in harmony with the space on which it sits because it permits the circulation of air and can be seen through. The cylindrical space left empty on the interior of "The involved Form" accentuates the sculpture's synergy with the surrounding space. In this outdoor exhibition, interplay between the light and shadow on the interior of this piece, combined with time and weather, changes the way it blends into the city scenery.

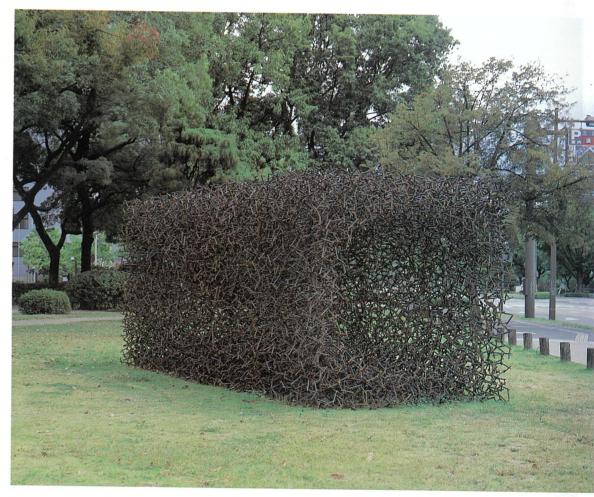


photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu 39

39.

《内包する形状》 The involved form

> 2003 230×600×230cm 鉄



### 加納 士朗

#### Kano Shiro

石という存在に魅せられた経験を出発点とする、加納士朗の彫刻制作は、永遠なるものに漸近しようとする態度に似る。《Untitled》は、かつて別の展覧会に出品された作品の表面に、わずかに手が加えられたものである。二つの差異は、一般論としての変更ではなく、作者個人の私的な思い入れに支えられる。それは、視覚効果のために行われるものではなく、テンポラリーな自らの存在を、石の永遠性に託すための作業なのである。

Initially inspired by the presence of stones, Kano Shiro makes sculptures that asymptotically tend towards the infinite. Kano's sculpture "Untitled" is a sculpture previously shown at another exhibition whose surface has been slightly modified. The difference between the two pieces is supported not by changes in common belief, but by the personal whims of their creator. The slight changes were not done for visual effect, but to entrust the temporary existence of the self to the permanence of the stone.

40.

《Untitled》 Untitled

2002 400×200×170cm 御影石 Granite



吉田 樹人

Yoshida Shigeto

41.

《cave》

cave

2003 335×200×250cm 鉄、ウレタン塗装 Urethane paint on iron plate 吉田樹人は、仮設された内部空間を構築し、その中に位置する鑑賞者の身体と作品空間との関係を考察する。(Cave)は、コンクリート製の地下通路をモチーフとするもので、元々は一室の壁と天井に張りつくように展示されるものとして意図された作品。今回の野外展示では、構造体が外観として出現するため、作品の周囲から建築を取り外した姿を想像させる。それは、不可視の建築(都市)と鑑賞者の身体性の関係をも浮上させる。

Yoshida Shigeto constructed a temporary interior space for the observation of the relationship between the piece itself and the bodies of the viewers within. "Cave" was built to invoke the concrete corridors of the subway and was originally planned to be attached to the walls and ceiling of a room. In this outdoor exhibition the entire piece can be observed from the outside, making it remind those who stop to look at it of its figure, stripped as it is of all surrounding buildings. The solitary position of the piece accentuates the relationship between the invisible buildings of the city and the bodies of the viewers.



42.

《包容》

Tolerance

2002-2003 320×780×144cm 樟、レッドトラバーチン、鉄 Wood, Red Travertine, Iron

4

江田 ゆかり

Eda Yukari

《包容》は、有機的な形態を、木と石(レッドトラバーチン)の二つの素材で対比的に構成した作品。これらの自然素材は、内部までが均一の状態ではなく、年輪と堆積の層とを内包する。江田ゆかりは、それを、「彫る」というよりも「剥く」ようにして露出させていく。制作の行為は、素材が形成された、ヒューマンスケールを超える時間を遡ることを意味する。ここからは、自身をも内省的に遡行していく認識が導かれる。

Eda Yukari's "Tolerance" is a piece in which two contrasting materials, wood and stone (red travertine), have been used to construct organic forms. These two natural materials contain a layer of growth ring and sediment which are not even. Eda has exposed this material not so much by carving, but by sharpening. The act of creation is tracing back materials that were created in time immemorial, before human existence. This piece encourages those who view it to look within themselves and reconsider their roots.

64



photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu 43



Maekawa Yoshiharu

石を素材とする前川義春の彫刻は、「形態」としてよりも「状態」として存在する。 (穿孔) は、花崗岩の中程までをコアドリルで刳り貫き、外側からクサビを入れて分割した作品。ここでは、完成時点まで見ることのできない、石の内部が最終的な表面となる。こうしたシステム化された方法論の背景には、総てがなし崩し的に成立していく日本の風土の中で、彫刻の〈制作〉はいかにして可能か、という問題意識が横たわる。

Maekawa Yoshiharu's stone sculptures exist more as situations than forms. For his piece "Coring" Maekawa used a core drill to bore to the center of a piece of granite, then split it using a wedge. The surface visible in the finished sculpture is one that can generally only be seen when the stone is in the process of being worked. The desire to show how the possibility of working with stone even amidst the conformative structure of Japanese customs is behind Maekawa's systematic process.



photo. 山本 糾 Yamamoto Tadasu 44

43.

《穿孔 I 》 Coring I

2003 750 × 250 × 100cm 御影石 《穿孔 II 》 Coring II

2003 550 × 500 × 93cm 御影石 Granite 参加作家略歴 Biography

#### 主な個展

- 1984 ギャラリー山口 (東京) 1985,1988,1990,1999
- 1990 ギャラリーホワイトアート (東京) 1995
- 1992 ギャラリー山口 SOKO (東京)
- 1994 ギャラリー天竺 (東京)
- 1997 愛宕山画廊(東京)
- 2000 ギャルリー東京ユマニテ (東京) 2002
- 2001 「村井進吾 思考する石」大分市美術館(大分) 北浜画廊 (大阪)

#### 主なグループ展

- 1981 「KUU 彫刻展」洋協ホール(東京)他 1983,1984,1986, 1988.1989.1991
- 「第14回日本国際美術展」東京都美術館(東京)、京都市 美術館 (京都)
- 1983 「第16回現代日本美術展」東京都美術館(東京)、京都市 美術館 (京都)
- 「5 の field 展」代々木アートギャラリー (東京)
- 「筑波国際環境造形シンポジウム '85」筑波研究学園都市(茨城) 1985
- 「PARTY 浜松町東芝ビル彫刻展」(東京) 1987 1986
- 「ラ・タマ90展」東京セントラル美術館アネックス 「多摩美から 12 の現在地展」 西武百貨店池袋店美術画廊 (東京)
- 「第4回国際シューボックス彫刻展」 ハワイ大学アートギャ ラリー (アメリカ)
- 「新島コーガ石彫刻フェスティバル」(東京)
- 1994 「第3回カジマ彫刻コンクール」〈奨励賞〉鹿島建設 KI ビ ルアトリウム (東京) 「彫刻展」代々木アートギャラリー (東京)
  - 「サントリー美術館大賞展94」〈推薦部門〉サントリー 美術館 (東京) 1996
- 「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ95」 <準大賞> (北海道)
- 1996 「雨引の里と彫刻」(茨城) 1997.1999.2001.2003
- 「箱・その宇宙展」ギャルリーユマニテ(東京、名古屋) 「大邸アジア美術展」(韓国)
- 「彫刻家達のリトグラフ展」ギャラリー OM (横浜) 「花・Flower」 ギャラリー山口(東京) 「現代美術の磁場 TSUKUBA 2000」 茨城県つくば美術館(茨城) 「2000 米子彫刻シンポジウム」(鳥取) 「かわさきアートアニュアル 2000」アートガーデンかわさ き (川崎)
- 「第 14 回素材の予感」マスダスタジオ(東京)
- 「大分現代美術展 2002 アート循環系サイト」大分市美術 2002
- 「六人の彫刻家 九月展」西湘画廊泰山画廊(東京)
- 「11人の彫刻」盛岡クリスタル画廊(岩手)

- 1952 Born in Oita
- 1978 Completed Graduate School of Tama Art University

#### Selected Solo Exhibitions

- 1984 Gallery Yamaguchi, Tokyo (also in 1985,1988,1990 and 1999)
- 1990 Gallery White Art, Tokyo (also in 1995)
- 1992 Gallery Yamaguchi SOKO, Tokyo
- 1994 Gallery Tebiiku, Tokyo
- 1997 Atagoyama Gallery, Tokyo
- 2000 Galerie Tokyo Humanite, Tokyo (also in 2002)
- 2001 "Stone on Thinking", Oita Art Museum, Oita Kitahama Gallery, Osaka

#### Selected Group Exhibitions

- 1981 "KUU Sculpture Exhibition", Yokyo Hall, Tokyo (also in 1983,1984,1986,1988,1989 and 1991)
- 1982 "The 14th Japan International Art Exhibition", Tokyo Metropolitan Art Museum, Kyoto Metropolitan Art Museum. Tokyo and Kyoto
- 1983 "The 16th Modern Japan Art Exhibition", Tokyo Metropolitan Art Museum, Kyoto Metropolitan Art Museum, Tokyo and Kyoto
- 1984 "Five field Exhibition", Yoyogi Art Gallery, Tokyo
- 1985 "Tsukuba International Enviromental Modeling Symposium 85" Tsukuba Kenkyu Collage Town, Ibaraki
- "PARTY Hamamatsu-cho Toshiba Building Sculpture Exhibition", Tokyo (also in 1987)
- 1990 "La Tama 90 Exhibition", Tokyo Central Art Gallery Annex, Tokyo "Exhibition of Twelve Presents from Tama Art University", Seibu Department Store Ikebukuro Art Gallery, Tokyo
- "The 4th International Shoe Box Sculpture Exhibition", University of Hawaii Art Gallery, U.S.A.
- "Niijima Kogaseki Festival of Stone Sculpture", Tokyo
- 1994 "Kajima Sculpture Contest", Kajima Construction Ltd. KI building, Tokyo "Suntory Art Museum Award Exhibition 94", Suntory Art Museum, Tokyo (also in 1996)
- "Toyamura International Sculpture Biennale 95", Semi Grand Prize, Hokkaido
- "Amabiki Village and Sculpture", Ibaraki (also in 1997.1999.2001 and 2003)
- "BOX Its' Cosmos", Galerie Humanite, Tokyo and Nagoya "Taegu Asia Exhibition", Korea
- "Lithograph Exhibition by Sculptors", Gallery OM, Yokohama "Flower", Gallery Yamaguchi, Tokyo "A Magnetic Field of Contemporary Art TSUKUBA 2000", Ibaraki Prefecture Tsukuba Art Museum, Ibaraki "Yonago Sculpture Symposium", Tottori "Kawasaki Art Annual 2000", Art Garden Kawasaki, Kawasaki
- "The 14th Material Energy Visions", Masuda Studio, Tokyo 2002 "Cyclical Art Site: Contemporary Art Exhibition in
- Oita 2002", Oita Art Museum, Oita "Six Sculptors - September Exhibition", Seisyo Gallery, Taizan Gallery, Tokyo
- 2003 "Eleven Sculptors Exhibition", Morioka Crystal Gallery, Iwate

#### 松井 紫朗 Matsui Shiro

1960 1986 現在	奈良県生まれ 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了 奈良県天理市在住	1960 1980
個展		
1995	「Rundlauf」Wewerka Pavillon(ドイツ・ミュンスター)	Sol

- 東京画廊 (東京) ケルン日本文化会館(ドイツ・ケルン)
- Galerie Carla Stutzer(ドイツ・ケルン) 信濃橋画廊(大阪)
- 「Tunnel in Blue」白土舎(名古屋) 1996 「scale down」白土舎 (名古屋) 1997 「skv exit」信濃橋画廊 (大阪)
- ESTUDIO, Galeria Helga de Alvear(スペイン・マドリッド) 「Shadow Casting」 Galerie Carla Stutzer (ドイツ・ケルン)
- 「Shadow Casting」白土舎(名古屋)
- 1999 「Shadow Casting」信濃橋画廊 (大阪)
- 2000 「dance, drink...」INTERVAL(ドイツ・ヴィッテン) 「Sky Channel」シーボルトハウス(オランダ・ライデン) 「Flesh Tone」白土舎(名古屋)
- 2001 「Vessels」信濃橋画廊 (大阪) 「Vessels in Vessel」白土舎(名古屋) 2002 「Parascope」 the Queen Victoria Building and The
- Strand(オーストラリア・シドニー) 「Days Daze」CASO(大阪) 「Days Daze Yokohama」横浜ポートサイドギャラリー (横浜) 「Curtain Call」信濃橋画廊 (大阪)

#### グループ展

- 1995 「小鳥は大空を想像する」元龍池小学校(京都)
- 1997 「Dream of Existence」 Kiscelli Museum(ハンガリー) 「思い出のあした」京都市美術館(京都) 「Pavillon」Cafe Luitpold(ドイツ・ミュンヘン)
- 1998 「Kunst Spur」(ドイツ・アーレン) 「アート/生態系」宇都宮美術館(宇都宮)
- 「インサイド / アウトサイド」新潟県立近代美術館 (新潟・長岡)
- 1999 「ART PACKING」大念仏寺 (大阪市平野区) 2000 「Trading Views」 Stadtgalerie Saardduecken(ドイツ・ ザールブリュッケン ), Stedelijk Museum De Lakenhal
  - Leidn(オランダ・ライデン) 「Prime」東京オペラシティ・アートギャラリー(東京) 「collection」兵庫県立美術館(神戸)
- 「プラスティックの時代 / 美術とデザイン」埼玉県立近代 美術館(さいたま) 2001 「Very Last」Galerie Gaddiele Rivet(ドイツ・ケルン)
- 美術館を読み解く 表慶館と現代の美術」表慶館(東京) 「第 19 回現代日本彫刻展 2001」宇部市野外彫刻美術館 (宇部)
- 2002 「Total 3000」(ドイツ・アルテンエッセン) 2003 「C.A.P. Party」 C.A.P. House(神戸)

- 0 Born in Nara
- 36 Completed Graduate School of Kyoto City University of Arts, Sculpture Department Currently lives and works in Nara

#### Solo Exhibitions

- 1995 Wewerka Pavillon, Munster, Germany Tokyo Gallery, Tokyo Japaniches Kulturinstitut, Koln, Germany with Karin Sander. Galerie Carla Stutzer, Koln, Germany Shinanobashi Gallery, Osaka
- "Tunnel in Blue" Hakutosha, Nagova
- 1996 "scale down" Hakutosha, Nagoya 1997 "sky exit" Shinanobashi Gallery, Osaka
- Estudio, Galeria Helga de Alvear, Madrid, Spain 1998 Galerie Carla Stutzer, Koln, Germany
- "Shadow Casting" Hakutosha, Nagoya 1999 "Shadow Casting" Shinanobashi Gallery, Osaka
- 2000 "dance, drink..." Interval, Witten, Germany "Sky Channel" Sieboldhouse, Leiden, Holland
- "Flesh Tone" Hakutosha, Nagoya "Vessels" Shinanobashi Gallery, Osaka
- "Vessels in Vessel" Hakutosha (Nagoya 2002 "Parascope" the Queen Victoria Building and The Strand, Sydney, Australia "Days Daze" CASO, Osaka
  - "Curtain Call" Shinanobashi Gallery, Osaka

#### Group Exhibitions

- 1995 "l'oiseau enchanteur des cieux" Tatsuike Elementary School, Kyoto
- "Dream of Existence" Kiscelli Museum, Budapest, Hungary "future recollections" Kyoto Municipal Museum of Art, Kyoto
- "Pavillon nichit alltagliche Orte in Munchen" Cafe Luitpold, Munchen, Germany 1998 "Kunst Spur" Kunst in der Stadt Ahlen und in den Raumen der Stadt Galerie, Ahlen, Germany
- "Art/Ecosystem" Utsunomiya Museum of Art, Utsunomiva "Inside/Outside" The Nigata Prefectural Museum of Modern Art, Nagaoka-city, Niigata
- "Art Packing" Dainembutsu-ji, Hirano, Osaka)
- 2000 "Trading Views" Stadtgalerie Saarbucken, Stadtische Galerie Erlangen, Germany, Municipal Museum De Lakenhal Leiden, Leiden, Holland "Prime-Reflection of Color and Form" Tokyo Opera City Art Gallery, Tokyo "Plastic Age: Art & Design" The Museum of Modern
- Art Saitama, Saitama 2001 "Very Last" Galerie Gabiele Rivet, Koln, Germany "Reading the Art Museum: Hyokeikan and Art of Today" Hyokeikan, Tokyo
- "The 19th Exhibition of Contemporary Japanese Sculpture 2001" Tokiwa Park, Ube
- 2002 "Total 3000", Altenessen Essen, Germany
- 2003 "C.A.P. Party" C.A.P. House, Kobe

パーク(マサチューセッツ・USA)

2001 The very last, ギャラリーガブリエレ・リベット (ケルン・ドイツ)

「ノアの箱舟」ギャラリーガブリエレ・リベット(ケルン・ドイツ)

#### 伊東 敏光 Ito Toshimitsu

1959	千葉県生まれ	1959	Born in Chiba
1987	東京芸術大学大学院美術研究科修了	1987	Completed Graduate School of Tokyo National
1998	ドイツ、デュッセルドルフ美術大学に短期研究留学		University of Fine Arts and Music
	現在、広島市在住。広島市立大学芸術学部講師	1998	Studied at Duesseldorf Art Academy, Germany
個展			Currently lives in Hiroshima City and is lecture Faculty of Art, Hiroshima City University
1986	G アートギャラリー (東京)	Colo	
1007	なびす画廊(東京)		Exhibitions
1987 1988	なびす画廊(東京)	1986	G Art Gallery, Tokyo
1989	淡路町画廊(東京) 「知覚の揺動」ギャラリーなつか(東京)	1007	Nabis Gallery, Tokyo
1990	秋山画廊(東京)	1987	Nabis Gallery, Tokyo
1991	ギャラリィなつか (東京)	1988 1989	Awajicho Gallery, Tokyo
1992	横浜ガレリアベリーニの丘ギャラリー (神奈川)	1989	"The Rocking of Perception", Gallery Natsuka, Tokyo
1994	秋山画廊(東京)	1990	Akiyama Gallery, Tokyo
1996	秋山画廊(東京)	1991	Gallery Natsuka, Tokyo
1998	秋山画廊(東京)	1992	Yokohama Galleria Bellini Hill Gallery, Kanagawa
1999	「砂鉄の庭」秋山画廊(東京)	1994	Akiyama Gallery, Tokyo
2000	「不在の庭」広島市立大学芸術資料館展示室 (広島)	1996	Akiyama Gallery, Tokyo
2001	AD & A ギャラリー (大阪)	1998	Akiyama Gallery, Tokyo
I. I	***	1999	"Garden of Iron Sand", Akiyama Gallery, Tokyo
土なり	ブループ展	2000	"Garden of Absence", Exhibition Hall, Hiroshima
1987	「アート・ドキュメント '87」栃木県立美術館(栃木)		City University Museum of Art, Hiroshima
	「大倉山アートムーブ '87」横浜市大倉山記念館(神奈川)	2001	AD & A Gallery, Osaka
1989	「The Exhibition '89」シェラトン・グランデ・トウキョ	0 1	
	ウベイ・ホテル & タワーズ (千葉)	Selec	cted Group Exhibitions
1990	「Inside Eye The 2nd - 1991」東京銀座アートセンター	1987	"Art Document '87", Tochigi Prefectural Museu
1000	(東京)、京都アートセンター (京都)		Fine Arts, Tochigi
1992	「第1回アート・アーティスト・オーディション受賞展覧会」		"Art Move in Ohkurayama", Ohkurayama Memo
1993	ソニービル・ソミドホール (東京)	1000	Hall, Kanagawas
1993	「93 フィールドワーク・イン藤野」(神奈川県藤野町)	1989	"The Exhibition '89", Sheraton Grande Tokyo Ba
	「都市の成熟と芸術の役割 - 歴史的建造物と芸術の共振」 旧広島大学学校教育学部図書館(広島)	1990	Hotel & Towers, Chiba
1995	「彫刻シンポジウム 東条アート・ドキュメント '95」(兵	1990	"Inside Eye the 2nd 1991", Tokyo Ginza Art
.000	庫県東条町)	1992	Center, Tokyo, Kyoto Art Center, Kyoto "The 1st Art Artist Audition Award Winners
1996	「国際交流野外彫刻展」海の中道海浜公園 (福岡)	1332	Exhibition", Sony Building, Somido Hall, Tokyo
1997	「都市の成熟と芸術の役割 No.II - 歴史的建造物と芸術の	1993	"93 Fieldwork in Fujino", Fujino Town, Kanagawa
	共振」旧宇品陸軍糧秣支廠倉庫 (広島)		"Resonance of Historical Buildings and Art
1998	「都市の成熟と芸術の役割 No.III - 歴史的建造物と芸術の		Exhibition", Former Library of Faculty of School
	共振」サントリー宮島工場(広島)		Education, Hiroshima University, Hiroshima
2000	「アジア現代彫刻 日本・韓国・台湾」高雄市立美術館(台	1995	"Sculpture Symposium Tojo Art Document '95"
	湾)、福岡アジア美術館(福岡)		Tojo Town, Hyogo
2001	「第3回アジア現代彫刻展」 寧殷美術館 (韓国)	1996	"International Exchange Outdoor Sculpture
2002	「トリエンナーレ東広島 2002」東広島市美術館(広島)		Exhibition", Umino-nakamichi Kaihin Park, Fukuo
2002	「倉橋アートドキュメント 2002 臨界域」 (広島県倉橋町)	1997	"The 2nd Resonance of Historical Buildings and
2003	「東広島現代美術プログラム 2003 白市 DNA」(東広島市		Exhibition", Former Ujina Food Warehouse of Ar
	高屋町白市)	1998	Hiroshima
		1998	"The 3rd Resonance of Historical Buildings and
		2000	Exhibition", Suntory Miyajima Plant, Hiroshima
		2000	"Asian Contemporary Sculpture: Japan, Korea, a Taiwan", Kaohsiung Museum of Fine Arts, Taiwa
			Fukuoka Asian Art Museum, Fukuoka
		2001	"The 3rd Asian Contemporary Art Exhibition",
			Young-Un Museum of Art, Korea
		2002	"Triennale Higashi Hiroshima 2002", Higashi
			Hiroshima City Museum of Art, Hiroshima
			"Kurahashi ART DOCUMENT 2002: Critical Area

er at

m of rial

Art rmy,

Art

and

Kurahashi Town Hiroshima

"Higashihiroshima Contemporary Art Program 2003 Shiraichi DNA", Shiraichi, Hiroshima

現在、埼玉県在住、東京芸術大学美術学部彫刻科助教授 1984 ときわ画廊(東京) 1985 ギャラリー山口(東京) 1986 ときわ画廊(東京) 1987 ギャラリーなつか(東京) 1988 ときわ画廊(東京) 1989 STEGOSAURUS STUDIO (名古屋・愛知) 1990 ギャラリーなつか(東京) ギャラリー NW ハウス(東京)、STEGOSAURUS STUDIO (名古屋·愛知)

F' スペース (東京) ギャラリーα M(東京)、STEGOSAURUS STUDIO(名 古屋・愛知)、ギャラリーなつか(東京) 1994 アートサイト (福井)

1995 東京画廊 (東京)、ギャラリーなつか (東京) 1997 東京画廊 (東京)、ギャラリーなつか (東京)

2001 ヨコハマポートサイドギャラリー (神奈川) 2003 福井県立鯖江高校ギャラリー王山

#### 主なグループ展

1985 「現況展戦後生まれの作家達」岐阜県美術 館 「日比谷シテイ '87 ビルの谷間の彫刻展」日比谷シティ山 1987 利車立)

「7人展」(東京画廊・東京) 「白州・夏・フェスティバル」(白州町・山梨) 1989

1990 「長野県佐久大理石彫刻家シンポジウム」小海リエックス

「今日の造形 7 現代美術<日本の心>展」岐阜県美術 館 「空間の変容展」東京芸術大学芸術資料館陳列館(東京) 「Duesseldorf · Seoul · Tokyo」クンストラウム(デュッ セルドルフ・ドイツ) 「30周年記念展森に生きるかたち」箱根彫刻の森美術 館

1999 -2000 (神奈川)

2000 「第3回光州ビエンナーレ」光州市立美術館(韓国) 「求心力/遠心力 うらわと現代の美術」うらわ美術館(埼玉) 2001

「東日本彫刻 39 の造形美」東京ステーションギャラリー 2002

2002 「みちのくアートフェスティバル 2002 高山登×林武史」国 -2003 営みちのく杜の湖畔公園(宮城)

2003 「彫刻の身体」東京芸術大学大学美術館陳列館(東京)

1956 Born in Gifu

1980 Graduated from Tokyo National University of Fine Arts and Music [B.F.A.]

1982 Completed Postgraduate Studies at Tokyo National University of Fine Arts and Music [M.F.A.]

1998 Stayed in Paris, on Fellowship from the Japanese -1999 Ministry of Education

Associate professor, Tokyo National University of Fine Arts and Music

#### Selected Solo Exhibitions

1984 Tokiwa Gallery, Tokyo 1985 Gallery Yamaguchi, Tokyo

1986 Tokiwa Gallery, Tokyo

1987 Gallery Natsuka, Tokyo 1988 Tokiwa Gallery, Tokyo

STEGOSAURUS STUDIO, Nagoya

1990 Tokiwa Gallery, (Tokyo. Gallery Natsuka, Tokyo

STEGOSAURUS STUDIO, Nagoya. Gallery NW house, Tokyo E'space, Tokyo

Gallery  $\alpha$  M, Tokyo. STEGOSAURUS STUDIO, Nagoya. Gallery Natsuka, Tokyo

Art Site, Fukui

1995 Gallery Natsuka, Tokyo. Tokyo Gallery, Tokyo Gallery Natsuka, Tokyo. Tokyo Gallery, Tokyo

Yokohama Portside Gallery, Kanagawa

2003 Gallery Ozan, Fukui Prefectural Sabae High School

### Selected Group Exhibitions

1985 "Art Now '85 The Artists After World War 2nd" The Museum of Fine Arts, Gifu

"Hibiya City '87 S culpture Exhibition" Hibiya City, Tokvo

1988 "Seven Artists Exhibition" Tokyo Gallery, Tokyo

"Summer Art Festival in Hakushu '89" Hakusyu-cho,

1990 "SAKU Sculptor Symposium" Koumi RE-EX, (Nagano

"Contemporary Art The Mind of Japan" The 1991 Museum of Fine Arts, Gifu

"Transformation of Space" The Art Gallery, Museum of Tokyo National University of Fine Art and Musuc, Tokyo

"Dusseldolf · Seoul · Tokyo", Kunstraum Dusseldolf, Germany

1999 "Forms in Nature" The Hakone Open-Air Museum, -2000 Kanagawa

2000 "The facet of Korean and Japanease Contemporary Art Kwangju Biennale 2000", Korea

"Centripetal Force & Centrifugal Force-Urawa and Contemporary Art" Urawa Art Museum, Saitama

"Sculptors of Eastern Japan" Tokyo Station Gallery, Tokyo 2002 "Michinoku Art Festival 2002" Michinoku Lakewood

-2003 National Government Park, Miyagi

2003 "The Human Body in Contemporary Sculpture" Chinretsukan gallery, The University Art Museum, Tokyo National University of Fine Arts and Music Tokyo

#### 丸山 富之 Maruvama Tomivuki

1984

1986

個展

1985

1986

1987

1001

1993

1996

1997

2001

1986

1996

1999

1956 長野県生まれ 1956 Born in Nagano 東京芸術大学美術学部彫刻科卒業 1984 東京芸術大学大学院彫刻科修了 University of Fine Arts and Music 東京芸術大学展示室 (東京) Solo Exhibitions ギャラリー葉 (車京) ときわ画廊 (東京) ギャラリーなつか (東京) ときわ画廊 (東京) 1986 Gallery Yo. Tokyo ときわ画廊 (東京) なびす画廊 (東京) 1989 1994 ときわ画廊 (東京) ときわ画廊 (東京) 1991 ヒノギャラリー (東京) 1993 ギャラリーなつか (東京) 1994 1999 ヒノギャラリー (東京) 1996 ギャラリー深志 (長野) ヒノギャラリー (車京) 1997 2003 田園の美術館(千葉) 1999 グループ展 2001 2003 Rural Museum, Chiba 「所沢野外美術展」所沢航空公園(埼玉) 「浜松町東芝ビル彫刻展」浜松町東芝ビル (東京) Group Exhibitions 「現代彫刻展 in 穂高」穂高町民会館(長野) 「現代彫刻展 in 穂高」穂高町民会館(長野) 「多摩川 - 福生野外彫刻展」福生南公園(東京) 「現代彫刻展 in 穂高」穂高町民会館(長野) 「現代九州彫刻展」石橋美術館(福岡) 「現代彫刻展 in 穂高」穂高町民会館(長野) 「2人展」ギャラリーサージ (東京) 「大町野外彫刻展」大町スキー場(長野) 「3人展」東京画廊(東京) 「<かたまり彫刻>とは何か」小原流会館(東京) 「<彫刻>展」代々木アートギャラリー(東京) 「葡匐は跳躍」なびす画廊 (東京) Ishibashi Museum, Fukuoka 「花蓮国際石材彫刻展」花蓮縣立文化中心(台湾) 「春のおくりもの」なびす画廊 (東京) 「かたちの所以」佐倉市立美術館(千葉) 「東日本 - 彫刻39の美」東京ステーションギャラリー(東京) "Omachi Open - Air Art Exhibition" Omachi Ski 「第5回雨引の里と彫刻」大和村(茨城) Place, Nagano

Graduated from the Sculpture Course, Tokyo National University of Fine Arts and Music Completed Graduate School of Tokyo National

1985 Tokyo National University of Fine Arts and Music. Art Gallery, Tokyo 1987 Tokiwa Gallery, Tokyo Gallery Natsuka, Tokyo Tokiwa Gallery, Tokyo Tokiwa Gallery, Tokyo Nabis Gallery, Tokyo Tokiwa Gallery, Tokyo Tokiwa Gallery, Tokyo Hino Gallery, Tokyo Gallery Natsuka, Tokyo Hino Gallery, Tokyo Gallery Fukashi, Nagano Hino Gallery, Tokyo

"Tokorozawa Open - Air Exhibition" Tokorozawa Aerial Memorial Park Saitama "Hamamatsu-city Toshiba Buildings Exhibition" Hamamatsu-city Toshiba Buildings, Tokyo "Modern Sculpture Exhibition in Hotaka" Hotaka Townspeople Hall, Nagano "Tama-River: Fussa Outdoor Sculpture Exhibition" Fussa South Park, Tokyo "Modern Sculpture Exhibition in Hotaka" Hotaka Townspeople Hall, Nagano "Contemporary Kyushu Sculptures Exhibition"

"Modern Sculpture Exhibition in Hotaka"Hotaka Townspeople Hall, Nagano "Two Artists Exhibition" Gallery Surge, Tokyo

"Three Artists Exhibition" Tokyo Gallery, Tokyo "What is the Katamari Sculpture?" Espace Ohara,

Tokyo 1994 "Sculpture Exhibition" Yoyogi Art Gallery, Tokyo

"Creeping is Leaping" Nabi Gallery, Tokyo "Hua-Lian International Stone Sculptural Festival"Hualien Country Cultural Center, Taiwan

"Gifts in Spring" Nabisu Gallery, Tokyo

Chiba Art Now '02 Retracing the Paths, Sakura City Museum of Art. Chiba "Sculptors of Eastean Japan" Tokyo Station Gallery,

"The 5th Exhibition of Amabiki Village and Sculpture" Yamato-Mura Ibaraki

1955	青森県生まれ	1955	Born in Aomori
1983	東京芸術大学大学院修了	1983	Completed Graduate School at Tokyo National University of fine Arts and Music
1986 -1988	ベルリン美術大学(DAAD・ドイツ学術奨学生)	1986	Studied in Berlin Art University by Scholarship of 3 DAAD
個展			
1984	ギャラリールナミ(東京)1986, 1989, 1990, 1992,	Solo	Exhibitions
1988	1993 ギャラリー ROHO(ドイツ・ベルリン)	1984	Gallery Lunami, Tokyo (also in 1986, 1989, 1990, 1992 and 1993)
1990	スペース MAP(東京)	1988	Gallery Roho, Berlin, Germany
1001	ギャラリー NAF(名古屋)	1990	Space MAP, Tokyo Gallery NAF, Nagoya
1991 1994	秋山画廊(東京)1994, 1995, 1996, 1997, 2000 横浜ガレリアベリーニの丘ギャラリー(横浜)	1991	Akiyama Gallery, Tokyo (also in 1994, 1995, 1996,
1998	METALART MUSEUM (千葉)		1997 and 2000)
	プラザギャラリー(東京)	1994	Yokohama Galeria Bellini-no Oka Gallery, Yokohama
1999	かわさき IBM 市民ギャラリー(神奈川)	1998	Metal Art Museum, Chiba
グルー	- プ展	1999	Plaza Gallery, Tokyo IBM Kawasaki-city Gallery, Kanagawa
1983	「毎日現代美術展」(東京、京都)		
1984	「同時代性への発話展」埼玉県立近代美術館(埼玉)	Grou	p Exhibitions
1985	「KONTAKTA'85 展」OAG-HAUS・ドイツ文化センター(東京)	1983	"Mainichi Modern Art Exhibition" Metoropolitan Art
1988	「ETAGEN KLANGE」 TELEFUNKENHAUS (ドイツ・ベルリン)	1004	Museum, Tokyo, Kyoto Municipal Art Museum, Kyoto
	「様々な視点」CHRISTOF WEBER ギャラリー(ドイツ・ ベルリン)	1984	"Proposal for Contemporaneousness" Museum of Modern Art, Saitama
1989	「藤野野外彫刻展」(神奈川)	1985	"Kontakta'85" OAG Haus, Tokyo
1991	「さまざまな眼」かわさき IBM 市民ギャラリー(神奈川)	1988	"Etagen klange" Telefunkenhaus, Berlin, Germany
1993	「フイールドワーク イン藤野」(神奈川)1994, 1995,		"Various Points of View" Christof Weber Gallery,
	1996, 1997	1000	Berlin, Germany
1995	「EUROPOS PARKAS 国際彫刻シンポジウム」(リトアニ	1989	"Open Air Exhibition of Sculputure in Fujino", Kanagawa
	ア・ヴィリニウス) 「日伯修交百周年展」MAC/USP(ブラジル・サンパウロ)	1991	"Various Eyes" IBM KawasakiCity Gallery, Kanagawa
	「Morphe'9'」City Crack (青山・東京)	1993	"Field Work in Fujino" Kanagawa (also in 1994,
1996	「名古屋・ソウル立体造形の交流展」名古屋市民ギャラリー		1995, 1996 and 1997)
	(名古屋)	1995	"International Sculpture Symposium" Europos
1997	「ソウル・名古屋立体造形の交流展」ウォンソーギャラ		Parkas, Vilinius, Lithuania
1000	リー、チョンローギャラリー(ソウル・韓国)		"Artistas JapoecseseNipo-Brasileiros Contemporaneos" MAC/USP, Sao Paulo, Brazil
1998	「FIELDWORK and SCULPURE」(ベルギー・プアス) 「FUJINO 国際アートシンポジウム」(藤野・神奈川)		"Morphe'9'" City Crack, Aoyama and Tokyo
	2001	1996	"Joint Exhibition of Sculptures between NAGOYA
1999	「埼玉副都心の為のパブリックアート - 新たな提言 -」(埼玉)		and SEOUL", Nagoya
	「子供たちとのアートワークショップ」(東京、神奈川、群	1997	"Joint Exhibition of Sculptures between SEOUL and
0000	馬、栃木、千葉、埼玉)	1998	NAGOYA", Seoul, Korea "FIELD WORK and SCLUPTURE", Puurs, Belgium
2000	「Land Art & Beeldhauwerken」デュインゲローベルド 国立公園(オランダ)	1330	"Fujino International Art Symposium", Kanagawa
	「インターナショナル・アーティスト・イン・レジデンス・		(also in 2001)
	青森 Puddles」(青森)	1999	"The public art, for the Saitama newly emerging
2001	「a lot of P」プラザギャラリー(東京)		city center: the new proposal", Saitama
2002	「東日本 - 彫刻展」東京ステーションギャラリー(東京)		"An art workshop with children", Tokyo, Kanagawa, Gunma, Tochigi, Chiba and Saitama
2003	「越後妻有アートトリエンナーレ 2003 儀明/劇場プロジェクト」(新潟)	2000	"Land Art & Beeldhouwwerken", Dwingelderveld,
	ジェクト」(利満)	2000	Nederland
			"International Artist-in-Residence Aomori
			-Puddles-", Aomori
		2001	"project 'a lot P' " Plaza Gallery, Tokyo
		2002	"Sculptors of Eastern Japan" Tokyo StationGallery, Tokyo
		2003	"Echigo-Tsumari Art Triennial 2003: Gimyou/
			Theater Project", Niigata

1957	山形県生まれ	1957	Born in Yamagata
個展		Solo	Exhibitions
1989 1991	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1989 1991	Gallery Lunami, Tokyo (also in 1991,1995) "Breath-graph" Gallery Surge, Tokyo E' Space, Tokyo
1992	「Breath-graph」細見画廊(東京) モリスギャラリー(東京)	1992	"Breath-graph" Hosomi Gallery, Tokyo Gallery Moris, Tokyo
1993	京)	1993	Gallery Temporary Space #022, Sappor "Breath-graph in Yubari 1992" Gallery Surge, Tokyo "Photos-Respirations" Jacobins, Museum of Fine
1995 1998	「Photos-Respirations」Jacobins,Museum of Fine Art(フランス・アジャン) 「光 - 呼吸 Photo-Respiration」ギャラリー日鉱(東京) Leslie Tonkonow Gallery(ニューヨーク)2000, 2003	1995 1998	Arts, Agen, France "Photos-Respirations" Gallery Nikko, Tokyo Leslie Tonkonow Gallery, New York (also in 2000, 2003)
1999 2001	「光 - 呼吸 佐藤時啓の眼差し」酒田市美術館 (山形) 「佐藤時啓プロジェクト」ギャラリー GAN (東京) 1996,	1999	"Photo-Respiration, Tokihiro Sato's view" Sakata City Museum of Art, Yamagata
2002	1997, 1999 「マジカルカメラ 佐藤時啓+ WanderingCamera」浜	2001	"Tokihiro Sato Projects" Gallery GAN, Tokyo (also in 1996, 1997 and 1999)
2003	田市世界こども美術館 クリーブランド美術館(オハイオ)	2002	"Magical Camera Tokihiro Sato + Wandering Camera" Hamada Children's Museum of Art
主な	グループ展	2003	The Cleveland Museum of Art, Ohio
1990	「第 18 回日本国際美術展」<美術文化振興協会賞・埼玉県	Selec	cted Group Exhibitions
	立近代美術館賞・いわき市立美術館賞受賞>東京都美術館 (東京)、京都市美術館 (京都)	1990	"The 18th International Art Exhibition Japan" Second Award, The Tokyo Metropolitan Art
1991	「SIMULTANEITA」ローマ市立美術館(ローマ) 「Make-Believe」The Photographers' Gallery(ロンド	1991	Museum, Tokyo, Kyoto Municipal Museum, Kyoto "Simultaneita" Museo di Roma Palazzo Braschi, Rome
1993	ン) 「メルセデス・ベンツ日本アート・スコープ '93」 <グラ ンプリ受賞>	1993	"Make-Believe" The Photographers' Gallery, London "Art Scope 93, Mercedes-Benz, Japan" Grand Prix
	「第 1 回アジアパシフィックトリエンナーレ」クイーンズ ランド美術館 (ブリスベン)		Award "The 1st Asia-Pacific Triennial of Contemporary
1994	「液晶未来 Liquid Crystal Futures」The Fruitmarket Gallery(エジンバラ)、ほかヨーロッパを巡回	1994	Art" Queensland Art Gallery, Brisbane "Liquid Crystal Futures" the Fruitmarket Gallery, Edinburgh, and toured in Europe
1995	「空間・時間・記憶 Photography and Beyond in Japan」ルフィーノタマヨ美術館(メキシコ)ほかアメリ カ・カナダを巡回	1995	"Photography and Beyond in Japan" Museo Rufino Tamayo, Mexico and toured the United States and Canada
1996	「光へのまなざし - 佐藤時啓 + 吉田重信」いわき市立美術 館(福島)	1996	"Gazing into the Light-Tokihiro Sato + Shigenobu Yoshida" lwaki City Art Museum, Fukushima
1997	「第6回ハバナビエンナーレ」(キューバ・ハバナ)	1997	"The 6th Havana Biennale" Cuba
1998	「日本ブラジル巡回国際現代美術展 98-99」リオデジャネイロ他、5都市巡回(ブラジル)	1998	"Japan-Brazil International Tour Exhibition 98/99" toured Rio de Janeiro and five other cities in Brazil
1999	「第 9 回バングラデシュビエンナレ」 〈優秀賞授賞〉 (バ ングラデシュ)	1999	"The 9th Bangladesh Asian Art Biennale" Bangladesh. Excellent Work Award
2000	「越後妻有アートトリエンナーレ 2000」(新潟)	2000	"Echigo-Tsumari Art Triennial 2000" Niigata
2001	「LUMINOUS」Bellevue Art Museum(シアトル) 「テクノランドスケープ」NTT インターコミュニケーショ	2001	"LUMINOUS" Bellevue Art Museum, Seattle "Techno-Landscape" NTT InterCommunication
2002	ン・センター (東京) 「大分現代美術展 2002 - アート循環系サイト -」大分市	2002	Center, Tokyo "Cyclical Art Site - Contemporary Art Exhibition in
	内各所(大分) 「Regarding Landscape」Museum of Contemporary Canadian Art(トロント), The Bronfman Centre for the Arts(モントリオール)		Oita 2002" Oita "Regarding Landscape" Museum of Contemporary Canadian Art, Toronto, The Bronfman Centre for the Arts (Montreal)
2003	「日本写真史展」ヒューストン美術館、クリーブランド美術館 (U.S.A.) 「宇部ビエンナレ - 第 20 回現代日本彫刻展 -」(山口県	2003	"The History of Japanese Photography" The Museum of Fine Arts, Houston, The Cleveland Museum of Art, Ohio
	宇部市)		"Ube Biennale - The 20th Exhibition of Contemporary Japanese Sculptures -" Ube

- 1951 広島県生まれ
- 1977 多摩美術大学大学院彫刻科修了
- 1989 《記憶堆積 (ARK)》で第2回朝倉文夫賞受賞
- 1994 《地殻》で第12回ヒロシマアートグランド/ヒロシマ国際文化財団美術奨励賞受賞
- 1996 《地殻 鼓動》で第27回中原悌二郎賞優秀賞受賞

#### 固展

1983 ギャラリー・美術館等で 30 回開催(日本、オランダ) -2003

#### 主なグループ展

- 1981 「第 15 回現代日本美術展」東京都美術館 第 9 回 / 1985,第 11 回 / 1991,第 14 回 / 1995「第 16 回現代日本彫刻展」宇部市常盤公園
- 1983 「第3回ヘンリー・ムーア大賞展」【エミリオ・グレコ特別優秀賞】美ヶ原高原美術館
- 1988 「地、間、余白-今日の表現から」埼玉県立近代美術館(埼玉) 1989 「日本の思考・西洋の方法:1980年代の日本の現代美術」 クイーンズランドアートギャラリー(オーストラリア) 「現代彫刻の歩みIII『1970年代以降の表現-物質と空間
- 1990 「第12回神戸須磨離宮公園現代彫刻展」神戸市須磨離宮公園
- 「現代日本美術の動勢 立体造形」富山県立近代美術館 1991 「ENCOUNTERING THE OTHERS」(カッセル、ハンミュ ンデン・ドイツ)
- 1992 「クールの時代」高知県立美術館

の変容』、神奈川県立県民ホール

- 1995 「雨引の里と彫刻」大和村(茨城)、1997,第2回/ 1999,第3回/2001,第4回/2003,第5回 「開館45周年記念 [I] 手の復権 道具と美術」神奈川県立 近代美術館
- 「コラボレーション:岡本敦生+野田裕示展」愛知県美術館 1997 「インサイド/アウトサイド - 日本現代彫刻の8人」新潟 県立近代美術館
- 1998 「天野純冶・岡本敦生 痕跡 -」米子市美術館
- 2000 「TUES「現代彫刻の展望」- 次元の創出 」美ヶ原高原美術館 「東日本 - 彫刻」東京ステーションギャラリー
- 2002 「倉橋アートドキュメント 2002 臨界域」 (広島県倉橋町)

#### 国際彫刻シンポジウム

1978 諏訪湖、Lahr、Kaiserslautern、Dordrecht、川崎、筑 -2003 波、那須、Soffiero、笠岡、New Zealand、大和村、米子、 Kyongnam、Bitburg

- 1951 Born in Hiroshima
- 977 Finished Postgraduate Course of Tama Art University, Department of Sculpture.
- 1989 Awarded The 2nd Asakura Fumio Prize.
- 1994 Awarded The 12th Hiroshima Art Grant Prize.
- 96 Awarded The 27th Nakahara Teijiro Superior Prize.

#### Solo Exhibitions

1983 30 times at galleries and museums in Japan and -2003 Holland.

#### Selected Group Exhibitions

- 1981 "The 15th Contemporary Art Exhibition of Japan"
  Tokyo Metropolitan Art Museum
  "The 9th Exhibition of Contemporary Japanese
  Sculpture" Ube Tokiwa Park (also in 1985, 1991
  and 1995)
- 1983 "The 3rd Henrye Moor Grand Prize Exhibition" the Utsukushi-gahara Open-Air Museum
- 1988 "The Space, Material, Tension, Vacancy in Japanese Contemporary Art" The Museum of Modern Art, (Saitama)
- 1989 "Japanese Ways, Western Means; Art of the 1980's in Japan" Queensland Art Gallery, Australia "Contemporary Sculpture in Japan -Transformation of Material and Space" Kanagawa Prefectural Gallery, Yokohama
- 1990 the 12th Contemporary Sculpture Exhibition" Suma the Detached Palace Garden, Kobe
   "A Current of Contemporary Art in Japan Sculpture" The Museum of Modern Art, Toyama
- 1991 "Encountering the Others" Kassel and Hann Munden, Germany
- 1992 "Cool Age: Noise Music of Art; The Museum of Art, Kochi
- 1995 "The 1st Exhibition of Amabiki Village and Sculpture" Yamato Village, Ibaraki (also in 1997, 1999, 2001 and 2003)
  "Dialogue Between Tools and Arts" The Museum of Modern Art, Kamakura, Kanagawa
  "Collaboration; Atsuo Okamoto + Noda Hiroji"
  Aichi Prefectural Museum of Art, Nagoya
- 1997 "Inside /Outside Japanese Contemporary Sculpture by Eight Artists" The Niigata Prefectual Museum of Modern Art, Nagaoka
- 1998 "JUNJI AMANO, ATSUO OKAMOTO -Traces-: Yonago City Museum of Art" Tottori
- 2000 "Sculptors of Eastern Japan" Tokyo Station Gallery, Tokyo
- Sculptors of Eastern Japan: Tokyo Station Gallery
  2002 "Kurahashi ART DOCUMENT 2002: Critical Area"
  Kurahashi Town, Hiroshima

#### International Sculpture Symposiums

1978 Suwako, Lahr, Kaiserslautern, Dordrecht, Kawasaki,
 -2003 Tsukuba, Nasu, Soffiero, Kasaoka, New Zealand,
 Yamato village, Yonago, Kyongnam, Bitburg

#### 吉井章 Yoshii Akira

1949	岡山県生まれ	1949
1975	東京芸術大学美術学部絵画科油絵専攻卒業	1975
1976	同大学にて大橋賞受賞	
1977	東京芸術大学大学院美術研究科絵画課程修了	
1978		1976
1981	第 55 回国画会新人賞	1977
1985	国画会会友	
1988	国画会会員	1978
1999	イタリア、ローマ・アカデミア美術学校短期研修	1981
個展		1985
		1988
1986	立川ビル画廊 (東京)	1999
1990	ギャラリー悠(東京)	Solo
1992	宮坂画廊(東京)	
1993 1994	吉祥寺伊勢丹(東京)	1986
1994	三越(名古屋)	1990
1997	新宿伊勢丹(東京) 天満屋(広島)	1992
1990	へ     ( )	1993
2001	秋点 (人版)   ギャラリー樹 (東京)	1994
2001	ネッツ・ギャラリー (広島)	1997
2003	ネッツ・ギャラリー (広島)	1998
2000	(広島)	2001
グルー	- プ展	2001
1978	「第 52 回国展」東京都美術館(東京)(以後毎年出品)	2002
1981	「第 15 回文化庁主催現代美術選抜展」	2003
1989	「安井賞出品」	Group
1996	「広島芸術学会 10 周年記念制作と思考 - 10 年の軌跡展 -」	1978
	(広島県立美術館)	1370
1998	「Contemporary Japanese Art Exhibition」(ポーランド)	1981
	, and the Extraordion (N )	1001

「広島芸術学会 - 極小と極大 -」広島県立美術館(広島)

Contemporary Japanese Art Exhibition (スロベニア)

「第4回西部国展〈絵画〉」大分県立美術館(大分)

「国画 13 の視線」ギャラリーひまわり(東京)

「国画 13 の視線」ギャラリーひまわり(東京)

「国画 13 の視線」ギャラリーひまわり(東京)

「第6回西部国展〈絵画〉」福岡県立美術館(福岡)

「広島芸術学会 - 眼と素材 -」広島県立美術館(広島)

「みちの会」高島屋(大阪・なんば、ジェイアール名古屋、

「広島芸術学会 - 境界と交流 -」広島県立美術館(広島)

「みちの会」高島屋(大阪・なんば、ジェイアール名古屋、

2000

2001

岡山、米子)

岡山、米子)

# Group Exhibitions 1978 "The 52th Kokuten" Tokyo Metropolitan Art

	Teltye Metropolitali Alt
	Museum, Tokyo
1981	"The 15th Modern Arts Selection Exhibition
	Cultural Affairs Agency

TOYOTA Netz Gallery, Hirosima

TOYOTA Netz Gallery, Hirosima

1989 "Yasui Prize Exhibition"

Born in Okayama

Exhibitions

Yu Gallery, Tokyo

Gallery Ki, Tokyo

Graduated from the Oil Painting Course, Tokyo

Awarded Ohashi Prize at the above University

Completed Graduate School of Tokyo National

Isetan Department Store in Kichijoji, Tokyo

Isetan Department Store in Shinjuku, Tokyo

Hankyu Department Store in Nanba, Osaka

Mitsukoshi Department Store, Nagoya

Tenmaya Department Store, Hirosima

University of Fine Arts and Music Accepted for the first time at Kokuten

The 55th Kokuten Rookie Prize

Became a Friend of Kokugakai

Tachikawa Gallery, Tokyo

Miyasaka Gallery, Tokyo

Became a member of Kokugakai A short research in Roma Academy, Itary

National University of Fine Arts and Music, Faculty

- 1996 "Hiroshima Society For Science of Arts: History of 10 year Exhibition" Hirosima Prefecture Arts Museum, Hiroshima
- 1998 "Contemporary Japanese Arts Exhibition" Poland
  "Hiroshima Society For Science of Arts: The
  Minimun and the Maximum Exhibition" Hirosima
  Prefecture Arts Museum, Hiroshima
- "Contemporary Japanese Arts Exhibition" Slovenija
  "The 4th Seibu Kokuten: painting" Oita Prefecture
  Arts Museum, Oita
- "Hiroshima Society For Science of Arts: Aborder and Exchage Exhibition" Hirosima Prefecture Arts Museum, Hiroshima
   "Michinokai" Takashimaya Department Store, Osaka,
- Nagoya, Okayama and Yonago
  "Kokuga Vewpoints of 13 members" Himawari
  Gallery, Tokyo
  "The 6th Seibu Kokuten: painting" Fukuoka
  Prefecture Arts Museum, Fukuoka
- 2002 "Kokuga Vewpoints of 13 members" Himawari Gallery, Tokyo
  - "Hiroshima Society For Science of Arts: Ones View and Material Exhibition" Hiroshima Prefecture Arts Museum, Hiroshima
    "Michinokai" Takashimaya Department Store, Osaka, Nagoya, Okayama and Yonago
    "Kokuga Vewpoints of 13 members" Himawari Gallery, Tokyo

1000 = 100

シンポジウム

2002 「第6回三人三様・私の世界」都美術館(東京)

1938	ヘルムシュタット・ヴォルスドルフ(ドイツ)に生まれる。	1938	Born in Wolsdorf/ Helmstedt Germany
1958	WKSブラウンシュヴァイクのペーター・フォイト教授	1958	Studied Painting in WKS.Braunschweig Prof. Peter
-1962	およびリュブリャナ美術学院ガブリエル・ストュピカ教	-1962	Voigt and Art Academy Ljubljana, Slovenia Prof.
	授に師事し、絵画を学ぶ。	1000	Gabrijel Stupica
1962	ブラウンシュヴァイク市 (ドイツ) が制定した「ルドルフ・	1962	"Rudolf-Wilke-Prize" founded by the city of
	ヴィルケ賞」を受賞。		Braunschweig
1966	ドイツ連邦政府が制定した「ヴィラ・マッシモ」ローマ	1966	"Villa Massimo", Roma Prize founded by the
	賞を受賞。		government of the Federal Republic of Germany
1967	ブレーメン芸術ホール「ユンゲス・フォーラム」で第三	1967	3rd Prize "Junges Forum", founded by Kunsthalle Bremen
	位に入選。	1974	Stipend from prize of the Government Lower
1974	ニーダーザクセン州政府(ドイツ)「シテ・インターナショ		Saxony "Cite International des Arts", Paris
-1975	ナル・デゥ・アルト」パリ賞受賞により奨学金を授与さ	1978	Lecturer at Hochschule fuer Bildende Kuenste
1070	れる。		Braunschweig, and Fachhochschule Hannover
1978	ブラウンシュヴァイク芸術大学およびハノーバー専科大	1980	2nd Prize HASTRA competition, Hannover
	学にて講師を務める。	1982	Winner of prize for painting, founded by the
1980	ハノーバーにて HASTRA コンクール第二位に入選。		government of Lower Saxony, Hannover
1982	ニーダザクセン州政府から絵画賞を受賞。		Appointed professor at University of Applied
	ハノーバー専科大学で教授に教授に就任。 ブラウンシュヴァイクにて国際アートキャンプ I に参加。		Sciences and Arts, Hannover
1000	ボンベイ (インド) およびカサウリにて国際アートキャ		Participant of international artcamp I.,
1983	ハンペイ (イント) あよびカックッに (国際) ードイヤンプ    に参加。	1000	Braunschweig
1005	カイロ(エジプト)にて第三回国際ビエンナーレにて審	1983	Participant of international artcamp II., Bombay
1985	カイロ (エジノト) にて第二回国际にエンノーレにて審査員賞を受賞。	1005	and Kasauli, India
1001	プラハ芸術アカデミー (チェコ共和国) に留学。	1985	Jury prize at 3rd international art biennial, Cairo/Egyp
1991 1999	60歳の誕生日を記念し、ヘルツォーク・アウグスト図書	1991 1999	Study visit at academy of arts, Prague/ Czech Republi
1999	館(ドイツ)にて展示会を開催。(主催:ヴォルフェンビュッ	1999	Herzog-August-Library, Wolfenbuettel. Exhibition in occasion of the 60th birthsday. Arranged by the
	テル市政府および HAB ヴォルフェンビュッテル)		City of Wolfenbuettel and the HAB. Wolfenbuette
2003	ハノーバー専科大学退任	2003	Retirement
2003	/// // TIN/I AIN/I AIN	2003	Neth ement
主な個	国展	Selec	ted Solo Exhibitions
1967	グロスゲルシェン・ギャラリー(ベルリン)	1967	Gallery "Grossgoerschen", Berlin
1968	シュメッキング・ギャラリー (ブラウンシュヴァイク)	1968	Gallery Schmuecking, Braunschweig
1971	カマー・ギャラリーにて「ユンゲ・ゲネラチオン」展(ハ	1971	Gallery Kammer "Junge Generation",
	ンブルク)(1978 年にも開催)		Hamburg(1978)
	レオンハート・ギャラリー(ミュンヘン)		Gallery Leonhart, Munich
1972	ヴァルター・ギャラリー(デュッセルドルフ)	1972	Gallery Walther, Duesseldorf (also in
	(1979,1983,1987,1994 年にも開催)		1979,1983,1987 and 1994)
	「ユンゲ・ゲネラチオン」カマー・ギャラリー(ハンブルク)		Gallery Kammer "Junge Generation", Hamburg
1974	カール・フリンカー・ギャラリー(パリ)	1974	Gallery Karl Flinker, Paris
1977	ブッフホルツ・ギャラリー(ミュンヘン)	1977	Gallery Buchholz, Munich
1979	デュクソン・ギャラリー(パリ)	1979	Gallery deCousans, Paris
	ヴァルター・ギャラリー(デュッセルドルフ)		Gallery Walther, Duesseldorf
1980	ファン・アーケン・ギャラリー(レーバークーゼン)	1980	Gallery van Aken, Leverkusen
1983	アンティオン・デュクソン・ギャラリー(パリ)	1983	Gallery Etienne deCousans, Paris
	バロダ (インド)、ウルヤ・ギャラリー		Urja Art Gallery, Baroda/India
1984	ホフシュテー・ギャラリー(フランクフルト・アム・マイン)	1984	Gallery Hofstee, Frankfurt/Main
1985	ルェップフェルト・ギャラリー (ハノーバー・イッセンハーゲン)	1985	Gallery Luepfert, Hannover Isernhagen
1989	ヤコブ・ギャラリー(オールデンブルク)	1989	Gallery Jacob, Oldenburg
	ニフ・オーベルランデフゲリレト・ゼャラリー (ブラウ		C. H d Ol I d serialete Brauma aleuraia

2004 "Galerie im Haus der Diakonie", Braunschweig Group exhibitions in Germany and foreighn countries.

Gallery des Oberlandesgerichts, Braunschweig

"Galerie im Rathaus", Duderstadt

"Peter Tuma,neue Bilder", Kornspeicher

Herzog August Bibliothek, Wolfenbütel

"Galerie im Kuenstlerhaus", Goettingen

1997

1999

1936	宮城県生まれ 現在、埼玉県在住	1936	Born in Miyagi Currently Lives in Saitama
個展		0 - 1	
		Solo	Exhibitions
1966	スルガ台画廊 (東京)	1966	Surugadai Gallery, Tokyo
1967	クリスタル画廊 (東京)	1967	Crystal Gallery, Tokyo
	文芸春秋画廊(東京)		Bungei Syunju Gallery, Tokyo
1968	スルガ台画廊(東京)	1968	Surugadai Gallery, Tokyo
1973	サエグサ画廊(東京)	1973	Saegusa Gallery, Tokyo
1974	たましん画廊 (東京)	1974	Tamashin Gallery, Tokyo
1976	円鳥洞画廊(東京)	1976	ENCHO-DO Gallery, Tokyo
1980	円鳥洞画廊(東京)	1980	ENCHO-DO Gallery, Tokyo
1985	彫刻の庭ギャラリー (埼玉)	1985	Chokokuno-niwa Gallery, Saitama
1987	仙台十字屋(宮城)	1987	Sendai Jujiya, Miyagi
1991	日本橋高島屋(東京)	1991	Nihonbashi Takashima-ya, Tokyo
1996	長野県池田町立美術館(長野)	1996	lkeda Municipal Museum, Nagano
2001	福井県立美術館(福井)	2001	Fukui Prefectural Museum of Art, Fukui
	アートギャラリー樹(東京)		Art Galler KI, Tokyo
グルー	- プ展	Grou	ıp Exhibitions
1964	「サロンアンデパレダン展」グランパレ(フランス)	1964	
-1965			"Salon des Indépendendants" Grand Palais, France 5 (Participate lienceforth every year)
1967	「第 4 ] 回国画会」都美術館(東京)(以後毎年出品)	1972	"The 42th KOKUGA-KAI" Recommandation of
1972	「第 46 回国画会 会員推挙」都美術館(東京)	.0,2	Member Municipal Museum, Tokyo
1973	「第 ] 回群展」スルガ台画廊(東京)	1973	"The 1st - 10th MURE-TEN" Surugadai Gallery, Tokyo
1978	「第2回具象現代展」上野松坂屋(東京)(1983第7回)	1978	"The 2nd - 6th GUSHO-GENDAI-TEN"
1979	「第3回具象現代展」<同人賞受賞>上野松坂屋(東京)	1070	Ueno Matsuzakaya, Tokyo
	(1980 第4回、1981 第5回、1982 第6回)	1979	"The 3rd GUSHO-GENDAI-TEN" prize: DOJIN,
	「第2回明日への具象展」日本橋高島屋(東京)(1982		Ueno Matsuzakaya, Tokyo
	第4回、1983第5回、1984第6回)		"The 2nd Representational Painting to Tommorow-
1982	「第1回仮家展」日動画廊(東京)(1983第2回、1984		TEN" Nihonbashi Takashima-ya , Tokyo (1981 The
	第3回、1985第4回、1986第5回、1987第6回、		4th, 1983, The 5th, 1985 The 6th)
	1988 第 7 回、1989 第 8 回、1990 第 9 回、1991 第 10 回)	1982	"The 1st - 10th KASHO-TEN" Nichido Gallery, Tokyo
	「第21回国際形象展」日本橋三越(東京)(1983第22回、		"The 21th KOKUSAI-KEISHO-TEN" Nihonbashi
	1984 第 23 回)		Mitsukoshi, Tokyo (1983 The 22th, 1984 The 23th)
1986	「第 29 回安井賞展」西武美術館(東京)	1986	"The 29th YASUI-SHO-TEN" Seibu Museum, Tokyo
	「第21回国際形象展」日本橋三越(東京)	1987	"The Actual Condition of Art Northest of Japan"
1987	「現代東北美術の現状    」福島県立美術館(福島)		Fukushima Prefectual Museum of Art, Fukushima
1988	「現代の人物画展」伊勢丹美術館(東京)	1988	"Human Figure of Contemporary" Isetan Museum, Tokyo
1991	「現代の視覚 1991 展」スルガ台画廊(東京)(1993 展)	1991	"The 1st - 7th SEIZAN-KAI" Gallery Emori, Tokyo
	「第1回青山会」ギャラリー EMORI (東京) (1992 第2回、	1993	"1993 Contemporary Art Festival"
	1993第3回、1994第4回、1995第5回、1996第6回、		Saitama Prefectural Museum of Art, Saitama
1993	1997第7回)	1998	"Exhibition of contemporary Japanese Arts"
1993	「1993 コンテンポラリーアートフェスティバル」 埼玉県		National Museum of Cracow, Center of Technic
	立美術館(埼玉)(1994、1995)		and Japanese Arts, Poland
	「志摩ミュージアム開館記念展」志摩ミュージアム (三重) (1995)	1999	"Exhibition of Contemporary Japanese Arts"
1998		0000	National museum of Ljubljana, Slovenia
1000	「コンテンポラリージャパニーズアーツ展」国立クラコウ 博物館 日本美術技術センター (ポーランド)	2002	"Line-Arts, International Art-Fair"
1999	「コンテンポラリージャパニーズアーツ展」国立リュブリ		Flanders Exp-Main Hall, Gent, Belgium
.000	アーナ近代史美術館 (スロベニア)	Symr	posium
2002	「リニアート国際アートフェア」Flanders Exp-Main Hall		
	(ベルギー・ゲント)	2002	"The 6th SANNIN-SANYO, My World"
0 000			Miyako Museum, Tokyo

### Flanders Exp-Main Hall, Gent, Belgium

デス・オーベルランデスゲリヒト・ギャラリー(ブラウ

ヘルツォーク・アウグスト図書館(ヴォルフェンビュッテル)

1999 「ピーター・トゥーマによる新作」(ケルンシュシュパイヒャー)

2004 イム・ハウス・デア・ディアコニィ・ギャラリー (ブラ

1997 市庁舎ギャラリー (デューダーシュッタット)

2003 アートハウス・ギャラリー (ゲッティンゲン)

ンシュヴァイク)

ウンシュヴァイク)

ドイツおよび諸外国にてグループ展に参加。

953	レーヴァークセン生まれ	1953	Born in Leverkusen, Germany Art studies at the Hochschule der Künste, Berlin
977 -1983	ベルリン芸術大学で学ぶ	1977	
994	ハノーバー専科大学教授(音響芸術)	1994	Professor of Soundart at the University of Applie Sciences and Arts, Hannover, Germany
Eな個	]展	0-1	tad Cala Exhibitions
981	ギャラリー・ギィアンノッツォ (ベルリン)	Selec	ted Solo Exhibitions
983	ギャラリー・ギィアンノッツォ(ベルリン)	1981	Gallery Giannozzo, Berlin
986	ヘッド・アポロフィス(アインドフォーベン)	1983	Gallery Giannozzo, Berlin
987	キュンストラハウス・ベッツァリーン(ベルリン)	1986	Het Apollohuis, Eindhoven
	ギャラリー・ネモ (エッケルンホルデ)	1987	Künstlerhaus Bethanien, Berlin
	モルトケライベルクシュタット(ケルン)		Gallery Nemo, Eckernförde
988	現代芸術組合(ブレーメン)		Moltkereiwerkstatt, Köln
991	ギャラリー・ブァイサー・ラーム(ハンブルグ)	1988	Gesellschaft für aktuelle Kunst, Bremen
992	新ベルリン・クンストフェアライン(ベルリン)	1991	Gallery Weisser Raum, Hamburg
	ギャラリー・ヘン(マーストリヒト)	1992	Neuer Berliner Kunstverein, Berlin
	P.S.1 現代芸術財団(ニューヨーク)		Gallery Henn, Maastricht
993	市立ギャラリー(ザールブリュッケン)		The Institute for Contemporary Art, P.S.1, New
994	カルチュアル・センター(シカゴ)	1000	York
	現代美術館(ロスキルテ)	1993	Stadtgalerie, Saarbrücken
999	ZKM (カールスルーエ)	1994	Cultural Center, Chicago
000	「サウンド・アート・フォーラム」パークコロナーデン(ベ	1000	Museum of Contemporary Art, Roskilde
	ルリン)	1999	ZKM, Karlsruhe "The Soundart Forum" Parkkolonaden, Berlin
002	ギャラリー・ネモ(エッケルンホルデ)	2000 2002	Gallery Nemo, Eckernförde
003	ギャラリー・ボステル(ベルリン)	2002	Gallery Vostell, Berlin
ゲルー	- プ展	2003	Gallery Vostell, Derlin
		Grou	p Exhibitions
983	「ビデオアート・イン・ドイツ」国立ギャラリー(ベルリン)	1983	"Videoart in Germany", Nationalgallery, Berlin,
007	「死角」クンストフェアライン(ハンブルグ) 「ドクメンタ 8」(カッセル)	1903	Germany
987	「芸術の手段」(ベルリン、ザールブリッケン、ミュンヘン、		"Im toten Winkel", Kunstverein, Hamburg, German
988	「芸術の手段」(ベルケン、サールノッッケン、ミュンベン、ブタペスト)	1987	"documenta 8", Kassel, Germany
991	「ベルリン!」ヒュー・レーン市立現代美術ギャラリー(ア	1988	"Ressource Kunst", Berlin, Saarbrücken, München
991	イルランド・ダブリン)	1000	Budapest
993	「マルチ・サウンド・フェスティバル」(オランダ・マー	1991	"Berlin!", Hugh Lane Municipal Gallery of Modern
555	ストリヒト)		Art, Dublin, Ireland
	「バルティック彫刻展」(スウェーデン・ビスビー)	1993	"The Multiple Sound Festival", Maastricht,
994	「アイランド・プロジェクト」バルティカ・アート(ポー		Netherland
	ランド・ダンツィング)		"The Baltic Sculpture Exhibition", Visby, Sveden
995	「サウンド・アート」(ハノーバー)	1994	"The Island Project", Ars Baltica, Danzig, Poland
996	「ソナムビエンテ」(ベルリン)	1995	"Sound Art", Hannover, Germany
997	「イン・メディアス・レス」ドルマバッへ宮(イスタンブー	1996	"Sonambiente", Berlin, Germany
	ル)	1997	"In Medias Res", Dolmabahce Palast, Istanbul,
1998	「サウンド・マークス」マサチューセッツ現代美術館(ノー		Turkey
	ス・アダムス)	1998	"Sound Marks", Massachusetts Museum of
1999	「20 世紀 ドイツ美術」 ナショナル・ギャラリー (ベルリン)		Contemporary Art, North Adams, USA
2000	「ポート・オブ・アート」 アート・バルティカ (フィンランド・	1999	"The Twentieth Century. A Century of Art in
	コトカ)		Germany", Nationalgallery, Berlin, Germany
2003	「コンセプチュアリズム」アカデミー美術館(ベルリン)	2000	"Port of Art", Ars Baltica, Kotka, Finland
		2002	"Concentualisms" Academy Museum of Art Berl

Germany

1964 1993 1996 1998 1999	「広島県官庁街区アーバンデザインコンペ」 「コロンビア大学アーカイブ 」収蔵作品
1996 1997	コロンビア大学大学院修士課程修了
2000 2001 2003	イリノイ州立大学建築学部客員教授 「JCDデザイン賞」入選
グル-	ープ展
1999	ル(東京)
2001	「Gc99 展覧会」ギャラリー O (京都) 「進化する CG 東レ DCA5 周年記念展」東京 (東京)
2002	「ハビタブルイメージ展」コンテンポラリー ター (ジュネーブ) 講演・シンポジウム
1997	神演・シンホシウム 「ペーパーレススタジオ」建築家倶楽部(東) 「情報技術と CAD 教育の現場」日本建築学会大
2000 2002	「イリノイ州立大学建築学部レクチャーシリー 「徳島国際文化村リレーフォーラム」(徳島)
著書	
1998 1999 -2000	「いま学ぶ最強のデジタルデザイン」 日経 BF 「建築とコンピュータサイエンス」a+u
2001 -2002	「建築デザインとコンピュータ」autodesk

93 96 98 99	「広島県官庁街区アーバンデザインコンペ」佳作 「コロンビア大学アーカイブ 」収蔵作品 「ジャパンアートスカラシップ」最終選考作品 「東レデジタルクリエーションアワード」グランプリ 「エブソンカラーイメージングコンテスト」佳作
96 97	コロンビア大学大学院修士課程修了 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了 フータイアーキテクツ設立
00 01 03	イリノイ州立大学建築学部客員教授 「JCDデザイン賞」入選 「SDレビュー」入選 現在、東京都在住。武蔵野大学環境学科講師
ルー	- プ展
99	「ジャパン・アート・スカラシップ入選展」スパイラルビル(東京)
1	「Gc99 展覧会」ギャラリー O(京都) 「進化する CG 東レ DCA5 周年記念展」東京都写真美術館 (東京)
)2	「ハビタブルイメージ展」コンテンポラリーイメージセン ター(ジュネーブ) 講演・シンポジウム
07	時級・フラバングム 「ペーパーレススタジオ」建築家倶楽部(東京) 「情報技術と CAD 教育の現場」日本建築学会大会(東京) 「イリノイ州立大学建築学部レクチャーシリーズ」(シカゴ) 「徳島国際文化村リレーフォーラム」(徳島)
書	でも一次(1013)と フォーノム」(応慮)
8 9 00	「いま学ぶ最強のデジタルデザイン」日経 BP 「建築とコンピュータサイエンス」a+u
1 02	「建築デザインとコンピュータ」autodesk

1993	Diploma Awards of III" Grand Prix
1996	"Urban Design Competition in Hiroshima" Honored
	Mentioned
1998	"Columbia University archive" Collection work
1999	Completed Graduate School Master's Course of
	Columbia University
	Completed Graduate School of Science and
	Engineering, Tokyo Institute of Technology
1996	Established F-tai Architects
1997	"Japan Art Scholarship" Finalist
	"Digital Creation Awards" Grand Prix
2000	"Epson Color Imaging Contest"Honored Mentioned
2001	"JCD Awards" Winner
2003	"SD Review" Winner
	Currently Lives in Tokyo and Lecturer at
	Department of Environmental Sciences, Musashino
	University. Visiting Professor in Digital Media, UIC
	School of Architecture
_	

1993 "Diploma Awards of TIT" Grand Prix

## Group Exhibitions

1964 Born in Tokyo

1999 "Japan Art Scholarship Winners'Exhibition" Spiral Garden, Tokyo "Go'99" Gallery O, Kyoto 2001 "L'Image HABITABLE" Centre Pour L'Image

Contemporaine, Geneve

2002 "Evolving CG" Tokyo Metropolitan Museum of Photography, Tokyo Lecture, Symposium

1997 "Paper-Less Studio" Kenchikuka-Kurabu, Tokyo "Information Technology and CAD Education" Architectural Institute of Japan, Tokyo

2000 "UIC Lecture Series" Chicago

2002 "Tokushima Kokusai Bunkamura Lecture Series" Tokushima

#### Publications

1998 "Digital Design in Architecture" Nikkei BP,06. 1999 "Architecture and Computer Science" a+u, -2000 05.1999-04.2000 2001 "Architectural Design and Computer" autodesk,

#### 和田 拓治郎 Wada Takujiro

1975 広島県生まれ 1998 第83回二科展/「喰益餓鬼」特選

2000 第1回力学おもちゃコンテスト/「筒水鐘」アーティス ティック賞受賞

2001 第86回二科展/「成功」二科賞受賞

2002 第2回音の彫刻コンクール/「筒鐘池」奨励賞受賞

2003 広島市立大学大学院芸術学研究科総合造形芸術専攻彫刻修了 広島市在住、広島市立大学芸術学部助手

#### グループ展

1999 中日青彫塑展(国立国父紀念館/台湾) 2002 「倉橋アートドキュメント 2002 臨界域」 (広島県倉橋町)

「ART COMMUNITY "TOMO" 」(広島) 第36回現代美術選抜展(北海道)

2003 「東広島現代美術プログラム 2003 白市 DNA 」(広島 県白市)

1975 Born in Hiroshima

1998 The 83th NIKA Exhibition/special election Prize, Tokyo

2000 The first mechanics toy competition/ artistic Prize, Tokyo The 86th NIKA Exhibition/NIKA Prize, Tokyo

2001 The 2th sculpture of sound competition/ incentive Prize,

Shizuoka Completed Graduate from doctor's degree at Hiroshima 2003

City University, Department of Fine Arts Majoring Currently lives in Hiroshima City and is assistant at

#### **Group Exhibitions**

1999 "The plastic art Exhibition of Japan-China" Taiwan

Faculty of Art, Hiroshima City University

2002 "Kurahashi ART DOCUMENT 2002: Critical Area"

Kurahashi Town, Hiroshima

"ART COMMUNITY 'TOMO'" Hiroshima "The 36th Contemporary Arts Selection Exhibition;

Cultural Affairs Agency" Hokkaido

"Higashihiroshima Comtemporary Art Program 2003 SHIRAICHI DNA" Shiraichi, Hiroshima

#### 加納 士朗 Kano Shiro

1975 栃木県生まれ

広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻修了 現在、広島市在住

2002 「倉橋アートドキュメント 2002 臨界域」 (広島県倉橋町)

1975 Born in Tochigi

2002 Completed Graduate School Master's Course of Hiroshima City University, Department of Sculpture Currently, lives in Hiroshima

#### Group Exhibitions

2002 "Kurahashi ART DOCUMENT 2002: Critical Area" Kurahashi-town, Hiroshima)

### 木村 東吾 Kimura Togo

1978 広島県生まれ

2000 広島市立大学芸術学部美術学科彫刻専攻卒業

2002 広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻修了 現在、広島市立大学大学院芸術学研究科総合造形芸術専攻

#### グループ展

2002 「世界遺産 白川郷芸術祭」(岐阜、富山)

「倉橋アートドキュメント 2002 臨界域」 (広島県倉橋町) 2003 「東広島現代美術プログラム 2003 白市 DNA 」(広島

県白市)

1978 Born in Hiroshima

2000 Graduated from the Sculpture Course, Hiroshima City University, Faculty of Art, Department of Fine

2002 Completed Graduate School Master's Course of Hiroshima City University, Department of Sculpture Currently, Graduate School Doctoral Course of Hiroshima City University, Department of Sculpture

#### **Group Exhibitions**

2002 "World Heritage Shirakawagou Art festival" Gifu and Toyama

> "Kurahashi ART DOCUMENT 2002: Critical Area" Kurahashi Town, Hiroshima

2003 "Higashihiroshima Comtemporary Art Program 2003 SHIRAICHI DNA" Shiraichi, Hiroshima

### 吉田 樹人 Yoshida Shigeto

1976 長崎県生まれ

広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科卒業

広島市立大学大学院芸術学研究科造形計画専攻修了 現在、広島市立大学大学院芸術学研究科総合造形芸術専攻 在籍

#### 個展

2003 Gallery K (東京)

#### グループ展

1998 Gallery KAZE (福岡)

2000 「SLASH EXHIBITION」(広島)

1976 Born in Nagasaki

Graduated from Department of Design and Industrial Arts, Hiroshima City University, Faculty

Completed Graduate School Master's Course of Hiroshima City University, Department of Design and Industrial Arts Currently, Graduate School Art Doctoral Course of

#### Solo Exhibitions

2003 Gallery K, Tokyo

#### **Group Exhibitions**

1998 Gallery KAZE, Fukuoka

2000 SLASH EXHIBITION" Hiroshima

Hiroshima City University

広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻専攻修了 2003 現在、同大学博士課程後期在籍

#### グループ展

- 1997 灰塚アースワークプロジェクト参加(広島)
- 広島ステーションギャラリー(広島) 1998
- 瓢箪堂 (広島)
- 広島・岡山卒業生選抜作品展(HOPES 展)(広島) 修了制作優秀作品 プリ・ラ・ジェネス受賞 ギャラリー DOMA

- 1976 Born in Chiba
- Bachelor's Degree at Hiroshima City University, 2001 Department of Fine Arts Majoring Sculpture
- Master's Degree at Hiroshima City University, Department of Fine Arts Majoring Sculpture Present, Doctoral Program at Hiroshima City University

#### **Group Exhibitions**

- Haizuka Ground Work Project, Hiroshima
- Hiroshima Station Gallery, Hiroshima 1998

Gallery DOMA, Hiroshima

- Hyotan-Dou, Hiroshima
- HOPES exhibition, Fukuyama Awarded First Prize

#### 前川 義春 Maekawa Yoshiharu

1955	福井県生まれ
------	--------

- 1982 東京芸術大学大学院美術研究科修了
  - ドイツ学術交流会 (DAAD) の奨学金を得て、渡独。ミュ ンヘン造形芸術大学入学
- マイスターシューラー (大学院資格) 取得
- 1991 ミュンヘン造形芸術大学修了。帰国 現在、広島市在住。広島市立大学芸術学部助教授

#### 個展、グループ展

- 個展ーギャラリー山口 (東京)
- 「ミュンヘン芸術展」国立ギャラリー ハウス・デア・ク 1986 ンスト (ミュンヘン) 1988, 1989, 1990
- 「ミュンヘンのアトリエからの国際展」市立ギャラリー ロートリンガーシュトラーセ (ミュンヘン) 個展一「内在から表面へ」ギャラリーホフマン (ミュンヘン)
- 「ガビ・ヘーベルとヨシハル・マエカワ」市立ギャラリー ガンツァハウス (バッサーブルク市・ドイツ)
- 1993 個展一茶屋町画廊 (大阪)
- 1995 「都市の成熟と芸術の役割 - 歴史的建造物と芸術の共振」 広島大学学校教育学部旧図書館 (広島)
- 1996 「国際交流野外彫刻展」海の中道海浜公園(福岡) 1997
- 「都市の成熟と芸術の役割 No.II 歴史的建造物と芸術の 共振」旧宇品陸軍糧秣支廠倉庫(広島)
- 「都市の成熟と芸術の役割 No.III 歴史的建造物と芸術の 共振」サントリ宮島工場内倉庫(広島)
- 「アジア現代彫刻 日本・韓国・台湾」高雄市立美術館(台湾)
- 「Art Crossing Hiroshima Project 2001 Spring」広 島市立大学オープンエアースペース (広島) 「Art Document 2001 - 福井の美術ナウ -」金津創作の
- 2002 「倉橋アートドキュメント 2002 臨界域 」 (広島県倉橋町)
- 2003 東広島現代美術プログラム 「白市 DNA」 (広島県東広島市)

#### 彫刻シンポジウム

- 1986~ ブルキナファソ国際石彫シンポジウム(西アフリカ)やビ ズネ ルツバヒ国際石彫シンポジウム (チェコスロバキ ア)をはじめドイツ、オーストリア、ハンガリー、イタリア、 ポーランド、フィンランドの各彫刻シンポジウムに参加
- 1992~ 佐久 (長野)、八王子 (東京)、村岡 (兵庫)、米子 (鳥取) 東条(兵庫)の各彫刻シンポジウムに参加

- 1955 Born in Fukui
- Completed Graduate School of Tokyo National 1982 University of Fine Arts and Music
- Received Scholarship from German Academic Exchange Service DAAD and went to Germany. Began study at the National Academic of Fine Arts Munich
- Received Master Student (Postgraduate Course Requirements)
- Completed the National Academic of Fine Arts Munich and came back to Japan Currently lives in Hiroshima City and is Associate Professor at Faculty of Art, Hiroshima City University

#### Solo and Group Exhibitions

- 1983 Solo Exhibition Gallery Yamaguchi, Tokyo "The Great Arts Exhibition Munich" National Gallery
- House of Arts, Munich (also in 1988, 1989 and 90) "International Fine Arts from Ateliers in Munich", City Gallery Lothring Street, Munich Solo Exhibition — "About Immanence at the
- Surface", Gallery Hoffmann, Munich "Exhibition: Gabi Heobel and Yoshiharu Maekawa" City Gallery Ganzerhause, Wasserburg, Germany
- Solo Exhibition Chayamachi Gallery, Osaka "Resonance of Historical Buildings and Art
- Exhibition", Former Library of Faculty of School Education at Hiroshima University( Hiroshima "International Exchange Outdoor Sculpture
- Exhibition", Umino-nakamichi Kaihin Park, Fukuoka "The 2nd Resonance of Historical Buildings and Art
- Exhibition", Former Ujina Food Warehouse of Army, Hiroshima
- "The 3rd Resonance of Historical Buildings and Art Exhibition", Suntory Miyajima Plant, Hiroshima "Asian Contemporary Sculpture: Japan, Korea, and
- Taiwan", Kaohsiung Museum of Fine Arts, Taiwan "Art Crossing Hiroshima- Project 2001 Spring" Open-Air Space, Hiroshima City University, Hiroshima
- "Art Document 2001: Fukui Art Now" Kanazu Sousakuno-Mori, Fukui
- "Kurahashi ART DOCUMENT 2002: Critical Area" Kurahashi Town, Hiroshima
- "Higasihiroshima Modern Art Program 2003 SHIRAICHI DNA" Higashihiroshima-city, Hiroshima

#### Sculpture Symposiums

- 1986 participated in the Burkina Faso International Stone Sculpture Symposium(West-Africa, Vysne Ruzbachy International Stone Sculpture Symposium, Czechoslovakia, and other symposiums in Germany, Austria, Hungary, Italy, Poland and Finland
- 1992 Participated in the Sculpture Symposium in Saku, Nagano, Hachioji, Tokyo, Muraoka, Hyogo, Yonago, Tottori and Tojo, Hyogo

表象都市 metamorphosis 広島 -芸術実験展示プロジェクト 2003 -

The Imaginary City "metamorphosis" Hiroshima; Experimental Artworks Exhibition 2003

#### [展覧会]

会期: 2003 年 9 月 27 日 [土] —10 月 26 日 [日] 会場: 旧日本銀行広島支店、平和大通り 主催: 広島市立大学/「表象都市 metamorphosis 広島」芸術実験展示グループ チーフディレクター: 武藤三千夫 彫刻領域ディレクター: 伊東敏光 絵画領域ディレクター: 吉井章 環境造形領域ディレクター: 前川義春協力: 武藤栄恵子 佐々木大輔

#### [カタログ]

編集:「表象都市 metamorphosis 広島」芸術実験展示グループ 編集者:武藤三千夫(広島市立大学芸術学研究科教授) 寄稿:金田晉(東亜大学総合人間文化学部長) 作品解説:藤井匡(宇部市教育委員会文化振興課学芸員) デザイン:中村圭 印刷:株式会社耕文社

発行日: 2005年2月

#### [Exhibition]

Exhibition Period: 27 September - 26 Octorber 2003

Exhibition Place: The Former Bank of Japan Hiroshima Branch Office,
The Peace Boulevard

Organizers: Hiroshima City University / Imaginary City metamorphosis

Hiroshima Experimental Artworks Exhibition Group

Chief Director: Muto Michio
Director (Sculpture Area): Ito Toshimitsu

Director (Sculpture Area): Ito Toshimitsu
Director (Painting Area): Yoshii Akira
Director (Environmental Art Area): Maekawa Yoshiharu
Cooperation: Muto Emiko, Sasaki Daisuke

#### [Catalogue]

Editor: Muto Michio
Text contribution: Kanata Susumu
Artwork Description: Fujii Tadasu,

Assistant Curator Ube Board of Education,
Cultural Promotion Division

Design: Nakamura Kei

Published by Imaginary City metamorphosis Hiroshima Experimental Artworks Exhibition Group Faculty of Arts, Hiroshima City University, 3-4-1, Ozuka-Higashi, Asaminamiward, Hiroshima City, Hiroshima 731-3194 Japan Printed in Japan, by Not decided

® Imaginary City metamorphosis Hiroshima Experimental Artworks Exhibition Group All rights reserved 2004